各種社會問題之研究

滿洲之社會



甲子七月號

第貳卷第拾壹號

南滿洲鐵道株式會社

鐵道

營業哩數（滿洲線 六八六哩 朝鮮線 一、一二二哩）

當社線主要驛と内地支那鐵道主要驛と鮮滿支間往復、週遊、巡遊のため船車連絡割引の便宜あり

埠頭及倉庫

大連、營口、安東、上海の各地には埠頭の設備と共に一般倉庫業をも營む

旅館

朝鮮

京城、朝鮮ホテル

釜山・新義州｝停車場ホテル

金剛山、長安寺及避暑ホテル（自六月至十月）温井里

滿洲

大連、旅順・奉天、長春・大連市外星ケ浦｝ヤマトホテル

本社　滿洲大連市東公園町

支社　東京市麹町區永樂町丸ノ内ビルヂング内

鮮滿案内所（東京支社、大阪、下關）

石炭

撫順炭は各種工業用炭竝船焚料炭として燃料界に雄飛し煙臺炭は無煙にして亦諸種の用途に使用せられ滿洲朝鮮は素より海外各地に於て顧客の需要に應ずる準備を有す

電氣及瓦斯

大連撫順に電氣鐵道を又大連、奉天、長春、安東、撫順に電燈事業を經營す大連、鞍山、撫順に瓦斯事業を經營す

銑鐵及窯業

鞍山に製鐵事業を經營し銑鐵をも產す大連に窯業試驗工場を有し優良なる硝子器等を製す

滿洲之社會＝第貳卷第拾壹號（大正十三年七月發行）

資本金　八千萬圓
拂込濟資本金　五千萬圓
積立金　壹千百四萬圓

本店　朝鮮京城南大門通
振替貯金口座　京城三三三番

預金、貸出、割引、海外諸爲替、地金銀ノ賣買其他一般銀行業務並朝鮮、滿洲及亞港ニ於テ日本銀行代理店事務ヲ取扱申候

朝鮮銀行

總裁　野中清

支店出張所

內地　東京、大阪、神戶、下關
朝鮮　釜山、大邱、仁川、平壤、鎭南浦、元山、群山、木浦、淸津、會寧
滿洲　大連、旅順、營口、遼陽、奉天、奉天新市街、鐵嶺、開原、四平街、鄭家屯
　　　長春、吉林、安東縣、龍井村、哈爾賓、傅家甸
支那　上海、青島、天津、濟南
露領　浦潮斯德　亞港
米國　紐育

右ノ外倫敦、巴里其他內外樞要ノ地ニ爲替取引先有之候

資本金壹千四百四拾萬圓

關東州地方費現金取扱

大連市金庫事務取扱

日支合辦 株式會社

龍口銀行

大連市浪速町

電話
- 代表番號 七一五一番
- 宿直用 五七三六番
- 公衆用 三三二八番

振替口座大連 一五五〇番

支店所及出張所在地

龍口、青島、哈爾賓、安東、鞍山、公主嶺、瓦房店、松樹

派出所

大連市內磐城町

日本內地及臺灣、朝鮮、滿洲、支那各地に爲替取引先有之

一般銀行業務便宜に御取扱仕候



利己心の兩方面

社會奉仕は公心より發し、熱誠と相待ち、而して利己心を抑制せざる可らず。公心之あるも熱誠足らず、申譯的、形式的、體裁的にする社會奉仕は眞實のものに非ず。眞實ならざる社會奉仕者の心事を解剖すれば、公心全く之なきに非ざるも、利己心猶は強く、而して其の利己心の消極的に動きつゝあるを發見するに難からず。利己心にも積極的と消極的との別あり。消極的利己心のものは、熱誠乏しく、主智的に流れ、利害の打算に長じ居れり。

積極的利己心の者は、自己あるを知りて社會あるを知らず、自己の利益の爲めには、他を押し除け、他を壓倒し、他を苦しめても、猶且その慾望を滿足せしめずんば已まず。彼等は社會共存の情理を解せざる者なり。消極的利己心の者は然らず、口に社會奉仕を唱へ、社會公共の事に係はり、或る程度まで相當に努力するを辭せざるも、公心乏しく熱誠足らざるが故に、其の爲すところ行ふところ總て申譯的、形式的、體裁的となるを免れざる也。

謂ゆる鄕原の徒、僞善者、假面の善人なる者は、積極的利己心の者に少くして、却つて消極的利己心の者に多し。我利我慾の外に何物もなき積極的利己心の者も困り者なれど、巧言令色鮮矣仁とあるが如く、消極的利己心の者も亦困り者なり。公を藉りて私を濟すものは往々此輩より出づ。事少しく面倒と觀れば、理窟を作り、口實を設けて責任を回避せんとす。蓋し消極的利己心の者は賢にして罪深く積極的利己心の者は愚にして罪淺きが如し。

生活改善は未だし

昨年九月の母國關東地方に於ける震火災は、國民に大なるショツクを與へ、自覺こ反省を促し、節約氣分俄に濃厚こなり、同時に生活改善の聲も高まつた。此の機會に、我が滿洲社會事業研究會は前後三回に亘りて特別評議員會を開き、約八項より成る生活改善事項を議決し、之を二萬五千枚印刷に附して關東州管内及び滿鐵沿線主要地の官公署、學校、會社、銀行、其他の公私團體に汎く配布し、別に會長の通牒文を添へて事項の周知方こ其の實行を求めた。社會生活の改善は個人生活の改善こ相待たねばならず、而して之を實にするには各種團體の協同努力を必要こするため、右の如く取計つたのである。吾々人類の生活は絕へず改善を繰返さねばならぬものだが、日本人たる吾人の生活は歐米文物の輸入模倣こ共に複雜こなり、之を隣邦の民國人に比較しても、新領土の民族たる朝鮮人に比較しても、其の衣食住の總べてが非常に冗漫であり、從つて無駄な費へが尠くない。殊に此の數年來吾々日本人の生活は甚だしく冗漫化し、奢侈贅澤に流れ、浪費濫費をなすもの多く、物質主

義の外面生活に勉めて精神主義の內面生活を怠り、浮華放縱、輕佻詭激に走り、之がために國家興隆の本たる質實剛健、醇厚中正、恭儉勤勞の美風を失ひ、公德は衰廢し、綱紀は弛廢し、風俗もまた紊れ、延いて思想界を惡化した。斯うなつた直接の原因は歐洲戰爭當時における不時の利得ごとより生じた大正八年前後の蜃氣樓的空景氣である。當時の黃金萬能的風潮は國民の良心を痲痺し、到るところ投機虛業を流行せしめ、世を擧げて功利主義、物質主義の信徒たらしめ、痲藥を掛けられた池中の小魚の如く流れのまに〱無自覺の漂蕩を事とした。此間における國民生活の惡化は非常なものだつた。其の結果、物價は著しく騰貴し、金利も亦甚だ高くなり、日本は世界一の物價高、金利高の國となり、爰に個人生活及び國民生活の懊惱が生まれ、財界の紊亂、事業界の萎縮、生產事業の不振、失業者の續出、輸入超過並びに國富減耗となつて、今日の如き深刻なる不況時代を現出した。遽かに大金を握つたものが其の大金に惶惑せられて無思慮無分別の行動に出で、之がために却つて其の身を誤まり、忽ち元の木阿彌に戾つたと同樣の仕儀で、衷心忸怩たらざるを得ない次第ではない乎。斯くても國民の迷夢は猶全く覺め切らなかつたが、圖らずも母國關東地方に稀有の震災が起つたので、玆に國民は愕然として長夜の眠より覺め、其の年の十一月十日、國民精神の涵養振作に關する畏れ多き詔書の煥發を見るに追んで、人心益々緊張し、そして生活改善の聲も高まつたのである。生活改善

の要旨は、言ふ迄もなく舊來の陋習殊に大正八年前後に亘つて第二次的に色付けられた浮華輕佻、放縱詭激、奢侈贅澤、投機虚業の弊風を一洗し、功利主義、物質主義の陋習を排し、儉素質實、剛健醇厚、節約勤勞といふ本來の眞面目な生活に立還る事であるが、それには冗漫複雜なる生活狀態に思ひ切つた革新を加へ、他の長を採りて我が短を補ふと同時に、多年の因襲的陋俗、例へば時間を守らぬ事、贈答又は送迎を虚禮的に行ふ事、葬儀に行列を作つて繰り歩く事、高い會費を出し合つて藝者本位の宴會を濫行する事など、總べて之を改めねばならぬのである。一切を改める事は固より一朝一夕の能くする所でなく、此間自ら一張一弛、一緊一緩あるは勢ひの免れ難い所だが、その後の狀勢を觀るに、震災當時の節約氣分と緊張ぶりは何時しか衰へ、上流階級のものは社交に必要以上の浪費をなし、相競ふて高價の舶來品を購入し、之を以て邊幅を修飾し、婦人はダンスに溺れ、虚榮と虚飾に憂身を窶して得々たるが如きは、實に心外千萬と謂はねばならぬ。米國の上下兩院が排日的移民法案を可決し、大統領がそれに署名調印したと云ふ報道が傳はつた時、人心再び緊張し、米貨ボイコットなど起り、國民の義憤が燃へ上つたが、熱し易く冷め易いのは我が國民の短所だから、其の中にはまた忘れたやうにケロリとなつて了ふかも知れない。米貨ボイコットと共に高價な舶來品を購はぬ様になり、それだけ奢侈品の輸入が減退し、眞面目な事業が起り、そして國産が増加すれば、今日の不況

は挽回され、國民生活の上に自ら改善が庶幾されるわけだが、粗製濫造の弊と商品の高い値段が改まり、物價と金利が低下し、更に勞働賃金が安くならなければ、生活改善の實は擧がるまいと思ふ。米國の有色人種排斥で國民の義憤が燃え上つたのは可い。併しアンチ米國熱に驅られて空騷ぎをする樣なことでは駄目だ。母國關東地方の震災は內から起つた國難、米國の日本移民排斥は外から來た國難で、此の內外兩面の國難に逢ひながら、國民の多數が猶ほ眞に迷夢より覺めないのは何とした事であらう。方今の日本が內外共に容易ならぬ苦境に立つて居ることを考へたなら國民は空騷ぎをしたり、徒らに悲憤慷慨したり、或はまた怒號咆哮したりすべきで無いのを悟り得べき筈だ、大正八年前後の蜃氣樓的空景氣と稀有の震災によつて弱められた國力を恢復し、國本を培養し、そして更始一新の實を擧げるのが我國當面の急務である。國民は此際その態度を愼重にし、沈着冷靜、隱忍自重、以て徐ろに善後の計を講ぜねばならぬ。それには先づ個人生活と國民生活を改善し、財政及び經濟を立直し、惱ましい毒々しい現在の社會相を根こそぎ改めることが何よりも大切である。此の根柢が眞實に改まつて、爰に初めて社會問題の解決が付き、國家も若返り、そして新たに勇ましくスタートを切ることが能きるのである。生温い、中途半端な、煮え切らない不徹底な事をして居ては、とても浮ぶ瀨はない。生活改善は未だし。我々日本國民は今や大いに臍の下を堅むべき時である。（芙峰）

時事雜感

◆米國の排日で國民の義憤が燃ゑ出したヤハリ日本は士國だ頼母しい所がある◆志士の割腹も基督教會の米貨拒絶も活動寫眞館の米國製フキルム排斥も米貨ボイコットも悉く國民義憤の現はれである◆併し我々日本國民は日本刻下の國情如何と顧みて感傷的の輕擧妄動を愼まねばならぬ◆國民の義憤が燃ゑ出したのに乘じて戰爭氣分を煽るものが有るやうだが一時の感情に驅られて理性を失ひ猪突猛進するのは謂ゆる匹夫の勇だ◆戰時の不時の利得のため之から起つた空景氣と投機虛業のため更に關東地方の震災のため却つて甚だしく財界を惡化した◆斯うして我が國力は憔に弱められた國民思想も惡化した財界の創痍猶ほ未だ癒ゑず不景氣は益々深刻となつて來た◆國力の恢復と國力の充實とが我國當面の急務だ國民は屈辱を忍んで其の對米的義憤を此際國力の恢復に注ぐべしである◆古語に『ならぬ勘忍を勘忍するが勘忍』と有るが今日の日本は眞の勘忍たる臥薪嘗膽を再びすべき時だ◆滿を持して放つ勿れソシて此間に國力を養へウンと腹帶を締めて氣海丹田に力を蓄へよ◆血氣に走つて輕擧妄動してはならぬ眞の勇氣は腹の底から出る腹力さへ養へば暴を挫ぐことは何時でも出來る◆『今に見ろ』と云ふ考ゑだに鞏固ならば面上に唾を吐き掛けられても平氣で居られる◆時可ならざる時は屈辱を忍んで時機を待つの外ない隱忍自重が大切だ直ぐ喧嘩腰になるのは大國民の態度でない◆ボイコットなどは元來が弱國又は弱國民の消極的報復手段に過ぎない支那のボイコットが夫れだ日本國民が其の眞似をして妙に當り散らすのは耻づべき事だ◆此際我國民は自重せよ日本の今日は匹夫の勇を揮ふべき時でない輕擧妄動は以ての外だ天は正義に與みす『ならぬ勘忍を勘忍』して居れば何時かは報復の時が來るだらう◆加藤新內閣が出來た適所に適材を置いた人材內閣だ力强い內閣であつて欲しい◆寸時にもせよ總理大臣になつた政友會の高橋總裁が此の內閣の平大臣に甘んじたのは見上げた立派な精神だ◆英國で統一黨が振つた時その總理で內閣の首班であつたバルフオーア氏がロイド・ジョージ氏の戰時聯立內閣の外相に甘んじたのと丁度同じ態度だ◆外國には斯うした例が少くないソレは畢竟するに國家のため將た大局のため區々

の名聞利達を捨てゝ一身を犠牲にすると云ふ大きな精神から出發するのである◆高橋是清氏を脱線家だの調子外れだのと惡口した者もあるが脱線する位の眞氣があるので非凡の藝が打てるのだ◆家督を子息に讓つて爵位を辭退し元の平民に立返つて盛岡で惡戰苦鬪し貴族院議員一變して衆議院議員になつた抔も俗臭の多い者には能きない藝當だ◆此人は南米で鑛山事業に失敗し一時は箱屋になつて生活した程その歴史が波瀾に富んで居るため何處か違つて居る◆政友會の總會席上で小我を沒して大我に活きよ小異を去つて大同に就けと高橋氏は叫んだが口先ばりで無く自身先づその通りに實行したのは豪い◆時人此人を呼んで達磨と綽名したのも故ある哉で轉んでも直ぐ起きる七顛八倒の波瀾多き閲歴は慥に貼子の達磨その儘だ◆印度から支那に渡り梁の武帝に見ねて『廓然無聖』と一喝し更に海を渡つて黄林に九年面壁した本物の達磨は大悟徹底した非凡の人物であつた◆『小我を沒して大我に活きる』と云ふことは凡夫俗人の能くする所でない血もあり涙もある眞人物でなければ能きない◆廉頗と林相如とが趙國に兩立して居たとき兩雄並び立たずで廉頗から喧嘩を吹ッ掛けた時の林相如の態度を思へ◆罵倒され侮篾され馬鹿にされても『彼と我とに趙國の双璧だ兩虎爭へば一虎は斃る國家のために自重せねばならぬ』と隱忍した彼は大我の人物だつた◆流石の廉も遂に飜然として悟り『全く私が惡かつたイヤ私は小人だつた實に耻かしい林よ許して呉れ』と云つて林の前に罪を詫びた彼も凡夫ではなかつた◆斯うして所謂刎頸の交りが成り兩雄並び立つて趙國の支柱となつたのである◆此の歴史譚の内にも多くの教訓が含まれて居る日本の今日は林相如のやうに喧嘩を吹ッ掛けられても隱忍せねばならぬ時である◆加藤内閣に並び立つた高橋氏と犬養氏とは林相如の心を心として國家のため憲政のため加藤子を援けて協調に骨を折るべしだ◆さうすれば此の内閣は力强い内閣となり壽命も案外に永く經綸と政策を着々行ひ得て動搖がちの政局を安定し民心を鎭めることが能きるだらう◆何事にも犧牲がなくては駄目だ犧牲献身の大精神に富んだ大我の人物が出なければ駄目だ◆屑々乎として小我を鬪はせ小利を爭ひ小異に執着する樣では個人も社會も國家も大きくなれない國民は切に猛省せよ。



都市の住宅政策と住宅問題

園部文雄

都市の過群密集生活が都市住民の健康を害することは、社會政策上大いに考慮を要する問題であるが、殊に下層階級者が非衛生的家屋內に過群密集する結果發生する各種の犯罪並びに風紀上の問題は最も留意致心すべき重大事項で、そこに都市住宅政策の必要が生じます。住宅政策の實施は下層階級のものより先にすべきが當然の事で當初それが慈善的事業であつたのも怪しむに足らぬのであります。

其れで先づ問題の起り初めた模樣から御話して見ますと、最初英吉利の倫敦でピーボデーといふ人が其の遺產五百萬圓を寄附したのが基となつてピーボデー信託會社といふものが起り、慈善的長家を建設して貧民部落の一部者をそれに收容しました。それが事の初まりでありまして、會社は其後資本金を增加して千九百四年には一千五百萬圓にもなり、二萬人以上の貧民を收容して居室、寢室、其他の設備を充分にした家屋を極低廉なる家賃で貸す事になりました。元々この家賃なるものは家屋の維持修繕をなすに必要な程度の額を取る丈でありまして、投資額に對する金利を見ない慈善的のものでありますから、家賃の廉なる事は當然で

あります。夫れから倫敦には今一つロートン館（一名貧民ホテル）といふ有名なる家屋があります。之れはロートン卿の盡力により出來ました家でありまして、五階建の耐火、防濕、衛生等の設備の總てを完備した家でありますが、宿賃一夜一人二十四錢、食費實費支辨といふ極手輕な便利に出來た宿舍であります。此の家には食堂、喫煙室、賣店まであると云ひますから大體の模樣が想像つきます。

慈善的行爲として起つた住宅經營には英國のポートサンライト市に在るリーバ氏經營の職工住宅、同國ボルンビル市におけるガドバリー氏經營の職工住宅、北米合衆國ガーリー市々營住宅など何れも有名でありまして、獨逸クルップ會社の職工住宅の如きも單に營利會社の經營として見ることの出來ぬ程に大規模且つ理想的の施設をして居ります。此のうち熟練職工を收容して居るブルゼンホフ區の如きは、寫眞や何かでも能く紹介せられて居る通りの美麗なる町と宏大なる家屋より成り、家屋の周圍における配合もまた宜しきを得田園都市の模範ともされる位で、誠に理想的に出來て居ります。其他慈善的の施設は猶ほ他にもありますが爰には以上代表的のもの丈に止めまして之より住宅政策の事に移ります。

英吉利では千八百七十五年に公衆保健法を公布實施し、また千八百九十年に職工住宅法を設けまして、住宅政策に關し各國に先鞭をつけました。この二ツの法律の大體を述べて見ますと、保健法では便所その他の衛生工事、有害物の檢査取締、街路淸潔法、塵芥除去法、溜池取締、惡水使用者の罰則、下宿取締、衛生狀態監視、衛生吏員の住宅出入權、有害物の個人起訴權等の各事項について規定しあり、職工住宅法にては職工階級の住宅計畫に必要なる場合に地方官廳に土地家屋を强制的に收用し得る權能を與へ、地方官廳自身にても住宅改良計畫をなし得る事となり、買收地を職工住宅建設用の場合に限り他人に賣渡したり又は交換したりする事も出來、尙ほ公營事業起債委員會なるものが組織され、此の機關に依つて住宅改良者の爲めに低

利な建築資金を貸與する事も出來ると云ふ有樣で、總てが能く整つて居ります。

斯樣な次第でありますので、法律が出來てから後、場末の非衞生的地帶の整理をして改良住宅を建設したりしましした事件が多くありましたが、整理した部分の住民のうち移轉して差支なきものは郊外の新設住宅に入れ、その場所を離るゝ事の出來ぬものは改造住宅に入れなどして、大層良き結果を得ました。それで市でも低き利率の公債を使用しましたが爲め今迄よりも安い家賃でも損をする事なく、住民も亦家が良くなつて然も今迄より低廉の家賃で濟むといふ誠に都合のいゝ有樣となり、間接には衞生や其他の方面も改善せられまして、警察事故まで少なくなつた所があります。この警察事故の少なくなつたと云ふことを或は一寸變に御感じになる方もあらうと思ひますから說明して置きますが、之れはリバプールの出來事で、リバプールといふ所は貿易港だけに多數の埠頭人夫が集まつて居り、これらの風來坊が夜分狹い非衞生的の場所で飮酒、賭博、喧嘩、亂暴等をしまして警察を惱ますことが夥しくありましたが、市營の收容所が出來て後は斯樣の事件が殆んど其の跡を絕ち、警察の縮少を必要とする樣になつたといふ話であります。

以上は主として英吉利の事でありますが、其他の國々でも大抵千九百年前後にこれに類した法律を設けまして、住宅政策を行ひ、都市住宅問題の解決に努力して居ります。例へば墺太利では千九百二年安價なる職工住宅の建設を奬勵する法律を發布し、千九百三年には同上實施規則を設け、白耳義では千八百八十九年乃至千九百年に住宅建設に關する法令を設け、佛蘭西も和蘭も獨逸も伊太利もこの前後にそれぞれ此種の法令を發布し實施して居ります。我國にても近年漸くこの種の施設をなすに至り、東京、大阪の市營住宅や紡績會社の職工宿舍なども出來、彥島製煉所の住宅や滿鐵の社員宿舍などが其內でも比較的大規模で且つ比較的秩序ある施設でありますが、併し未だ敢て誇るべき程度のものではありません。關東州の都市大連の住宅政

策も之を實際に照らして見るときは甚だ不徹底のやうに思はれます。

住宅政策と共に都市の住宅を如何にすべき乎といふ事も大いに考慮を要する問題であります。都市の住宅と申しましても之れから述べまする處は主として中流以下の所でありまして、金持などで自由自在に勝手なことの出來るものは之を省きますが、近頃外國でやつて居る公營住宅の實例や亞米利加邊の近時の傾向から推して考へて見ますと、一軒々々獨立した家屋が段々と少くなりまして、共同的の大建築か或は割長家式のものが喜ばれる有樣であります。これは設備さへ良ければ建築費や維持費に大變な利益があるのと住ひ易き便利がある爲でありまして資產の少きものとか薄給のものとかには誠に都合がよくあります。これも少し實例を擧げまして御話し致しますと、亞米利加で嘆賞せられて居るアパートメントとか英國で云ふブロックなるものは四五階以上の建築でありまして、庭園や玄關とか階段とかは共同にして居ますが、其他の設備は各自單獨に所有して居りまして、共同の蒸氣暖房裝置もあり、內容は殆んど申分なく、なか〱完備したものであります。斯樣な家では大抵家の管理人もその家屋の內に一緒に住んで居りますから、總てについて借家人との間に諒解もあり、誠に痒いところに手が屆くやうに出來て居ます。

夫れから英國風に申しましてテナメントとかフラットとか云ふ二三階建の先づ割長家式のものもありますが之れも大體においてアパートメントに類した設備であります。一般にアパートメントとかフラットテナメントなどいふ言葉はよく混用して用せられますので、適確なる境をつける譯に參りませぬが、要するに多數の家族が一つ家に一部分の共用して差支なき部分を共用し、共用しては都合の惡きものを獨立さし、そして無駄な冗費を省きつゝある生活の方法でありまして、我國のやうな木造建築を主とする所では色んな方面に於て一寸實施し難きものであります。併し大連を初め奉天その他の都市の建築には當箝ります。是等の家屋

では電話なども管理人の所で交換して何れの家へも通ずるやうになり、暖房も共通的に焚いて居りますから一軒々々で石炭を搬んたり焚き付けたりする世話も入らず、夜分遲く歸つても湯を汲みに行けば何時でもあつて、敢て自分で沸す必要もなく、またも家中共同のボーイもありまして時間限りで掃除洗濯もして呉れるといふ風に總てのものが最も都合好く且經濟的になつて居ます。中途半端の者で女中一人を置く程でもないが無ければ不自由だとか電話を掛けても使ふ事が少ないが無ければ具合が惡いとか云ふ連中には誠によい結果を與へます。又家の壁とか屋根、玄關、階段の如きも共同でありますから、自然一軒當りの負擔も少くなつて、家賃も同程度の家に較べますと廉くなる譯であります。持主が公共團體で低利の金を運用して設備したものでありますと其の居住者の蒙る恩典は一層多大であらうと思ひます。

參考の爲め英吉利の倫敦市參事會の持つて居る共同館の家賃を申して見ますと、三室の家の一ヶ月の家賃十二圓八十錢乃至二十二圓五十錢、四室の家の一ヶ月の家賃十五圓乃至二十七圓九十錢で、其他の室數の多きものも少きものも之れに準ずる有樣であります。但しこれは千八百九十三年乃至千九百六年頃の話しでありまして、少々古き事ではあり、現今では大分變つてゐる事でありましようが、その當時この家屋を建築するに要しました建築費は平均一室當り八百圓乃至千百圓であつたと申しますから、その比例を以て見ますれば大體判る事だらうと思ひます。之れらの模樣から考へて見ましても、日本のやうに少さくても一軒獨立したものでなければならぬと申して、共同的の生活を好まなかつたり、餘り遣ひもせぬ玄關や座敷を客用として取つて置き、別に內玄關を設けて居るとか、上中下の便所までなければならぬと言つて肝心な最も居住に必要な室が家全體から見て眞の一小部分にしか當らぬなどは誠に馬鹿な話しでありまして、金持の國の人々が仕ない冗費を平氣でやつて居る次第であります。都市の住宅としては是非この點に注意しまして無駄な費

體を省き、無駄な設備をせず、また無駄なところに金を費はぬ樣にして、歐米の如き金のある國の人々以上に切りつめた遣り方をなす樣にしなければならぬ事と考へられます。

其他都市の住宅として、比較的郊外に近き所とか、敷地のユッタリして居る所とか、又は比較的餘裕のある人々の住ひとして、コッテージフラットとか、コッテージとか、又は亞米利加で流行して居るバンガローとか云ふものも必要であります。是等は一括して田園都市と稱して居ります。田園都市とか或はまた花園都市とかいふ言葉は、英語の謂ゆるガーデンスチーの譯語でありまして、要するに廣濶なる地域に密集過群の生活をなすことは事變り、宅地の周圍には多少の植込や野菜果實園もある都市を言ふので、花園の內にある町とも見らるれば田園の中にある都市とも稱することが出來、極めて理想的の都市住居を意味するものであります。此の田園都市にも色々種類がありまして、郊外都市だの勞働者植民地だのと云ふ名稱のものもありますが、是等のことを述べると餘り長くなりますから、先づ此邊で止めて置きます。

內地の勞働問題を調査して

滿鐵審査役、本會評議員　牧野虎次

私は最近內地に於ける勞働問題の視察をして來たが、官營民營を通じて內地に於ける工場及び鑛山又は坑山等に從事する勞働者の狀態はこゝ數年來非常に好くなつた。併しそれは物質方面が勞働者のために良くなつたといふ丈けで、精神的方面は寧ろその反對であり、勞働者の心理狀態が大分變つたと同時に、處によつ

ては非常に惡化した樣に思はれた處もあつた。資本家は勞働者の立場を認め、其の向上改善を念とし、從來のやうな專制的高壓的手段に出るものは殆ど無いと云つても差支ない。然るに最近に至り勞働運動に一變態を生ぜしめた。それは何故であらう乎。如何なる事由からであらう乎。私は種々研究したうへ從來執り來つた政府の方針が急に變つたのが其の最大原因であることを發見した。これは事業經營者即ち資本家側の一通りならぬ苦心を拂つて居るところで大いに注意すべき事柄であると思ふ。

我國で勞働問題に關する學者の論議が最も喧しかつたのは大正七八年頃であつたが、當時の政府は、勞働者の團體を公認したら何んな亂暴を働くか分らないと云つて、勞働團體否認の態度を執り、而も其の緩和策として縱の組合即ち資本家と勞働者の合同した組合の組織を盛んに奬勵した。この組合は英米には古くからあつて、原語でショップコンミテーム・システムと云ひ、譯して工場委員會制度と稱して居るが、政府は其の第一着手として鐵道の現業委員會制度を設けた。當時私は內務省に在つて同制度の編製に參與したが斯くの如く政府は官業民業を問はず此の勞資協調制度を採つて勞働問題に臨んだのである。名稱は組合と言はずに何々協議會とか何々懇談會とか稱し、之れに依つて事業經營者と勞働者の接近を計り、相互の利害關係を結合せしめ、における勞そして工場內働條件の改善を行つた。鑛山又は坑山の事業が著しく改善されたのは實に此間の事であるが、此の縱の組合なるものは要するに勞働者側の結社を許さず、即ち勞働組合を公認せずそして謂ゆる階級鬪爭等の悶着紛議の起らないやうにする一種の豫防線である。

然るに政府は今春に至つて俄かに縱の組合による制度即ち勞資協調の方針を捨てゝ勞働者のみの團體を公認するに決し、既に勞働組合法案まで編製し、更らに勞働團體に對してゼネバの國際勞働會議に列席する代表者の選擧權を與へた。之れは我國の勞働運動に正しく一紀元を劃したものである。然るに政府は從來奬勵

した縱の組合にこの選擧權を與へなかつた。夫れのみならず、勞働組合法がまだ公布實施されないにも拘らず、縱の組合を除いての勞働團體に代表者の選擧をなさしめたので、資本家側の代表者選擧にも、勞働者側の代表者選擧にも、非常な混亂を生じ、內面的にも外面的にも極めて面白からぬ結果を招いた。當時政府の**方針に適應した勞働組合は海軍工廠の總聯盟で、之れは在來の左傾派に對抗して起つた新らしい勞働團體で**あるが、此の新らしい勞働團體が非常に猛烈な運動を行つたにも拘らず、遂にその效を奏せず、代表者の選擧は左傾派にしてやられ、勞働總同盟の鈴木文治君が當選するに至つた。

この官業勞働團體とも云ふべき海軍側の職工總聯盟が慘敗した事に就いて世論は皮肉にも這んな事をいつた。之まで危險視された左傾派の鈴木君が勝利を占めた事は內務省の擁護を受けたからで、其の結果、海軍側の總聯合は內務省から壓迫を受けたのであると。事實の如何は知る所でないが、私は政府の方針の急變についで質した處、當局者は『最近日本に於ける勞働總同盟は大體に於て穩健になり、勞働運動に一大改善が加へられ、之までのやうな空理空論に走るやうな事はない、政府はこの穩健なる態度に共鳴するものである』と答へた。翻つて勞働總同盟側の當事者に就いて聞いて見たら政府當局者と同樣の意見を唱へて居た。此等の點から推察するに、勞働團體の幹部と政府とが情意投合して勞働團體を公認せしめる樣になり、國際勞働會議の代表者選出にも都合のいゝ結果を得たものと思はれるが、勞働組合法の公布實施を見た上のことなら兎も角、未だ其事なきに先だち斯樣な事になつたのは頗る變體現象と言はねばならぬ。この政府の對勞働方針が急變した事に就いて一番困つて居るのは資本家側卽ち事業經營者である。

私の勞働問題に對する意見を忌憚なく述べるならば、大正八年に國際勞働會議の設立された際、同會議に我國の加盟したことが大なる早計であつたと思ふ。治警十七條の撤廢さへ斷行し得ず、縱の組合を作つて橫

の組合を認めず、勞働組合法の制定すら躊躇してゐた當時、單に名分に促はれて國際勞働會議に加盟したのは慥に早計であつた。加盟するなら歐米各國と同様に勞働組合法を制定し勞働團體を公認してからでなければならぬ。それが順序だ。然るに此の順序を踏まないで政府の手で勝手に代表者を選出して會議に送つたので、その勞働代表者は大正八年から十二年まで前後五回の會議において特殊の待遇を受け、代表者自身も資格なしと聲明し、却つて日本の面目を傷つけて了つた。是等の失敗に鑑み、政府は今春に至り急に其の態度を改め、勞働總同盟の鈴木文治君の代表を認めたのであるが、前にも述べた通り、此の遣口も順序を誤つて居る。第一歩を誤つたので從つてまた第二歩も誤まる事になつたのだ。

更らに勞働問題の上に冷靜なる考慮を要する點は、勞働運動が益々硬化し、勞働組合が勢ひ强くなり、そして勞働賃銀が高まれば、物價の騰貴と相待つて、それが海外貿易の上に影響し、偶々他の乘ずる所となるといふ一事である。大正七年十一月歐洲大戰の休戰條約が成立した當時、マンチエスター・ガーデアンといふ實業新聞はその社說において這ふ言ふことを書いた。

『休戰と同時に英國が第一に盡力せねばならぬ事は商工業の恢復である、殊にマンチエスターの紡績事業である、戰爭中に失はれたるマーケットを取返すことが焦眉の急である。東洋の市場全部は戰時中日本に奪取された。戰後の日本の發展を見るも、また其の好景氣を見ても、蓋し思ひ半ばに過ぐるものがある。如何にして東洋のマーケットにおいて競爭すべきかゞ英國に取りての刻下の問題である。日本は東洋に於て二ツの大なる利益を持つて居る、一つは市場に近いこと、他の一つは勞働賃銀の安價なる事であるが、賃銀の低廉といふことは今や我等に取りて左のみ問題とする必要がなくなつた。見よ日本の勞働者は賃銀の增額を要求して生活の向上を叫んで居るではない乎。恐らく日本における勞働賃銀は今後益々高まるだら

う。吾等はこの日本の狀態に多大なる注意を拂はねばならぬ』云々

此の一說を見て日本に於ける勞働者は如何に考へる乎。國內の勞働爭議は國外の競爭者の乘ずるところとなると云ふことを考へて、産業及び貿易のため、國際商業のため、深く考へて貰ひたいものである。勞働爭**議の裏面には如何なる魔の手が潜んで居るかも知れないのである。**

勞働問題は詮ずるところ福利增進を最後の目的とせねばならぬ。その手段方法は暫く措きその結果の斯くあらん事を期待せねばならぬ。然るに我國の勞働運動は階級鬪爭の色彩が濃厚で、思想的左傾的になり易く國際商業の事など考へず、從つて脫線氣味がある。本年四月末に阪神電車の車掌及び運轉手等數百名は團結して交通勞働組合を組織したが、その決議文なり宣傳書なりを見ると、明瞭に階級鬪爭を標榜して居る。それが單に自分等の會社幹部に對するのみならまだしも社會の一般に向つて挑戰的態度を表明して居るのは穩かでない。勞働總同盟は政府當局の見る通り穩健になつたかも知れないが他の勞働團體にはまだ過激分子の方が多い。利己的なところも多分に有つて居る。之は甚だ憂慮すべき事と思ふ。

更らに小作爭議は水平運動と相待つて我國現時の最も見逃し難い社會問題である。視察中高松で前滿鐵理事の中川知事に遇つた時、氏の話に同縣下には工場爭議はないが小作爭議は絕えない之には心配して居るとのことであつた。我國現下の農業は地主も損をなし小作人もまた損をして居る。地主は租稅に苦しみ、小作人は子弟の教育さへ出來ない狀態であるが、夫れでありながら互に相爭ふて居る。相爭ふて抑々何物を得んとするのである乎。双方困りながら相爭ふのは結極共倒れになるの外あるまいと思ふ。日本の産米は日本の人口を養ふに足らず、農村の荒廢と共に、處に依つては非常に産米の減つた所もある。然るに此の容易ならぬ時代に小作爭議が頻發して、地主も小作人も共に損失すると云ふは、洵に憂ふべき現象である。斯んな內

輪喧嘩をする樣では日本の前途が危ない。それで識者は分配問題を考ふに先立つて生産問題を考慮し、而して後、社會、政治並びに經濟の諸問題に對することが大切であると考ゐる。

以上は內地に於ける勞働問題を親しく調査した結果の一端を述べたのであるが、滿洲に斯樣な勞働運動を波及せしむることは、百害ありて一利なく、在滿鮮人にも、支那人全體にも、決して好い影響を與へるもので無い。滿洲に於ける筋肉勞働者の大多數は支那人であるから、彼等に對して經營者たり資本家たる立場にある在滿邦人は、深く考ふる所がなくてはならぬが、彼等勞働者が流行かぶれの空虛な勞働運動を起すが如きは、寧ろ自繩自縛に陷ることを忘れてはならぬ。吾々は勞働運動に就いて世界の大勢を見、一方日本內地の勞働問題にも注意し、努めてその惡影響を受けない樣に努めねばならぬ。然らざれば此の滿蒙の特殊地域を開發して新天地、新社會とすることは出來まいと思ふ。（文責在記者）

忌憚なき私の都市大連觀

滿鐵衛生課長、醫學博士　金井章次

私は着任早々であるから、滿洲の事に就いては未だ十分に研究して居らない、從つて申上ぐべき話題もないわけであるが、僅かに見聞し得た二三に就いての所感を述べて見ませう。

此の大連や滿洲には私の先輩諸氏や同僚が澤山居りまして何れも異口同音に『大連は好い處だらう』と尋ねる。是等の諸氏はこの大連が天下無二の安樂郷でもあるかのやうに思つて居るらしい。今大連を讚美するその理由を聞くと、第一に大連の市街は整然として人道と車道との區別があり、街路樹は綠蔭滴らんばかり

これに建築物は不燃燒物を使用して火災の憂れが尠ない、街衢の整頓せる狀態は東洋隨一の理想郷であるこいふ事、第二には生活費の安價なることで、贅澤すれば限りないが、この土地から獲れる物產を使用すれば頗る安く付く。安價な生活をなし得られる上に會社、銀行、其他に就職して居るもの丶給料が內地に比較して割がい丶、殊に滿鐵會社は他の何物も及ばない優遇を社員に與へて居るといふ事で、つまり大連は好し、滿洲は非常に好い處だといふのは要するにこの二點に歸着するやうである。

そこで新來者たる私に遠慮のない批評を下さしむるならば、以上は美點であらうけれども、之を以て吾人の誇りとし、それが都會美であり生活安であると思ふのは皮相の觀も甚しいのである。先づ第一の都會美から申上げますが、成る程大連埠頭に上陸すると、阿房宮のやうな贅をつくした船客待合所があり、高層なる埠頭事務所あり、道路は坦々砥の如く如何にも氣持好い市街ではあるが、比較的殷賑の中心點ともいふべき大山通、浪速町、伊勢町、信濃町附近は案外貧弱である。浪速町通りだけは商店櫛比して東京の銀座通りに相應しい處もあるが、信濃町第一市場から日本橋に至る電車通りの如きは最も貧弱な市街で、志岐組ビルデング、木村菓子店、其他最近改造された二三商店は何れも三層樓の堂々たる大厦であるけれども、其の間に點在する家屋に至つては全く見るに堪へない木造の古家屋で、中には軒の傾斜したものさへある。大山通りの四層樓に隣接して支那人の雜貨店があるのは都會美を誇る大連としては皮肉なコントラストである。さうかと思ふと日本橋前の廣場に面して狹隘な木造家屋の前に賣藥の廣告が天に冲して居る。東洋に冠たる理想ホテルと稱するヤマトホテルの窓から町の裏面を看て御覽なさい、文明の粹を蒐めたと云ふホテルの隣地には豚小屋に等しい木造家の倒壞しかゝつた煙突から黑煙が朦々と立上つて居り、その廣い庭にはシチーㇺローラが死を待つかのやうに靜かに橫臥して居るではありませんか。市街の中心地點たるホテルの大廣場の向

ふや附近には雜草生ひ茂り昔のダルニー時代を思はせる狀態ではありません乎。

更らに市街に塵芥の多いことは驚くばかりで、其のうへ折角造られた坦々たる道路には荷馬車が通る、乘用馬車が馳ける、馬糞が路上に積み上つて青蠅が群集してゐると云ふ有樣、それのみならず、塵芥や糞便を汲取つた馬車や車が白晝市街を横行するに至つては益々驚かざるを得ない。大連に永く居住された人々は是等の醜惡なる事柄に氣が付かないでせうが、苟も都會美を以て誇らうと思ふならば、是等の點を一日も早く改善されたいものである。夫れで私の意見としては都會美といつた外見の樣式を整ふると共に都會衞生に留意されたいと云ふのである。滿洲は降雨尠なく一帶に空氣が乾燥して居るから、塵芥が非常に多く、奥地に於ては全く黃塵萬丈の形容詞が如實に認められる。從つて呼吸器病患者が多く、呼吸器から肺病と順次重態に陷り、竟に取返しの付かない事になるのである。滿洲にも肺結核豫防會があつて結核豫防の必要を宣傳されて居るやうですが之れは土地柄に最も適應した事業であります。如何なる都市にも缺點はある、大連市に缺點のあるのは怪むに足らないが、如何に外形ばかり整頓して居つても、這うした都會衞生が餘り考究されて居ないのは大いに遺憾といたす處である。文明の都會として誇らうと思ふならば、社會施設に、衞生施設に、將たまた敎化施設に、宜しく其の內容を充實すべきであります。

第二の生活の安價といふ事は、成る程土地から出るものを購入して居れば安く生活が出來、肉も魚類も鷄卵も野菜も內地に比較すれば三四割も安い樣だが、大連人士の實際生活は頗る贅澤の樣に思はれる。安い處の魚菜で足らず、遠い內地や芝罘邊から盛んにそれを輸入し、好んで高價なものを平氣で消費して居る。過日第一市場に行つて見たが、內地各地の食料品が店前に山をなし、千里の海外にあるを思はせない、否寧ろ內地の地方都市には見られない程に完備して居る。之は全く交通至便の賜で、大いに感謝せねばならないが

滋うした贅澤な飲食物が盛んに賣れるところを見ると、大連の人々は決して安價イヤ堅實な生活をして居な
い、却つて贅澤な放縱な締りのない生活をして居ると私は思ふ。

夫れに宴會の多いことは世界一であらう。最近節約が宣傳され、國力の充實が叫ばれて居るのに、獨り大**連のみは全く治外法權下にあるかの如く、本日は送別會、明日は親睦會、或は歡迎會**といつたやうに殆ど宴會に追はれて居る。私の知人の如きは月の中で家族と共に晩食するのは僅か數回に過ぎないといふ狀態である。これでも二三年來不況の爲め宴會が半減したのだと聞いては呆然たらざるを得ない。生活改善の絶叫さる〻今日、徒らに形式に囚はれた放縱な生活を送つて居ては、如何に安價な物資を得られても何等の效果がないわけだ。要するに生活が餘りに安樂な爲めに却つて斯る享樂生活が盛んになるのではあるまいかと思ふ若し物資が安くて其の上に十分生活し得るならば、宜しくその餘裕を蓄積して有用の資に充當すべきであつて、去すれば今日の如き不況時代にも甚だしい困難はない筈である。然るに大連の生活は右の如くで、却つて市民の氣風を惡化せしめ、次第に墮落に誘いてゐる。此の小都市にして特殊婦人の多數なる、又此種の機關が遺憾なく完備してその營業者の多いことなど、他に類例を見ない處である。新開地には一般に這うした風習のあるもので、蓋し已むを得ないことでもあらうが、戰雲治つて既に十有八年、今尚ほ此くの如き始末では好くない。一日も早く内容の整つた都市に改造されんことを希望します。



花柳病の慘害と其の取締

京日旅順支局長　池内勝里

花柳病の發生と、其の豫防といふ事に付いては、可なり久しい以前から喧しく論議されてゐる社會問題の一つのであるが、本病はペストやコレラのやうに部分的でなくして世界的であるために、充分その目的たる豫防撲滅の實效を奏することが能きない。一面多くの人々も、本病の如きは醫學の領分に屬するものとして之が豫防撲滅に對して無關心であると云ふことも、其の目的達成の上に尠からざる障碍を與へつゝある事を看逃がしてはならぬ。花柳病の恐るべき猛威が如何に人を毒し、延いて社會に毒を流し、國家を害するかを知つたならば、之が豫防撲滅は獨り醫術のみに任すべきでなく、また自分自らの問題でもなく、社會生活及び民衆の保健上當然の目的として之が撲滅に努力せなければならないのである。

▼歷史的考察

此の恐るべき病氣が何時頃から發生し如何して蔓延するに至つたかを先づ順序として第一に述べて見る。確實なる歷史によると、本病は今より約三百九十年頃に初めて歐洲で發生を見たのであるが、其の病原菌の發見されたのは漸く二十年前後のことである。そこで本病は、ずつと以前においては人類の發生と同時に芽ぐんだものであるとの說と、コロンブスの亞米利加發見以後であるとの二說があるが現在では後者が有力であるらしい。そして歐洲各國に蔓延したのは一千四百九十年前後で、それが東漸するに至つた經路は、先づロシヤから支那に入り、我國に傳播したのは何でも永正九年頃である樣だ。當時九州地方で南蕃瘡と稱せられたのが云ふまでもなく本病である。

▼花柳病の現狀

然らば花柳病の現狀は奈何であらうかと云ふと、全國に於ける壯丁の平均患者の數は一萬二千で、その千分比例は二四パーセントである。之を外國の例に徴すると米國では約七十パーセントで、英國も又同樣の數字を示して居る。更に精神病專門學者の說に依れば、精神病者の三分の一は**黴毒に基因すると云はれ、秦博士に依れば、生産兒の六割までは親の遺傳梅毒のために夭折するといふ事である**

斯うして本病者は、自分の一生を暗黑に過ごすのみならず、更に怖るべき病毒を子孫にまで傳へ、而も不具者を生じたり、身體は普通であつても精神の曲つたものが出來たり、或は思ひも寄らぬ犯罪をしたりする者が生ずる結果、不知不識國家をして危機に瀕せしむるに至るのである。

▼取締の實狀

現在に於ける花柳病の取締は各國とも特殊婦人卽ち賣淫婦に對して制定された法規の上からのみ行はれて居る。我國で公娼を檢黴してゐる事は誰しも周知の事實である。外國でも諸威の如きは深酷だと思はるゝ程に積極的の方法を採用して極力撲滅に努力して居る。それは特殊婦人ばかりでなく一般に結婚したものでも、相手が花柳病患者であるといふ事を知つた時、被害者から告發した場合には相當の刑罰を加へるといふ寧ろ極端過ぎやしまいかと思はれる位に取締つてゐる。其他獨逸あたりでも、未婚の婦女子が花柳病に罹つたときは、之を以て明かに密賣淫したものと認定して之れに法の制裁を加ふる場合もあり、尚ほ自身花柳病に罹つて居るのを知り乍ら他人に傳染させたものは其罪甚だ輕くないから宜しく常に相當の處分に附すべきものであると力說してゐる者すらある。之等は何れも法規の力を藉りて撲滅を期せんとするものであつて諸威の如きは非常に良々な成績を擧げて居るといふ事である。

▼公娼廢止の可否

本論は最近各方面で論議せられて居るが、之は極めて重要な問題である丈けそれ丈け單に議論としても簡單に云ひ盡されないから、他日稿を新たにして本問題だけ、論議することにし

爰では花柳病と密接の關係を有する點のみに就いて一言して置きたいのである。

善良なる社會組織の上から云へば公娼の如きは無い方がよいのであるが、之を無くすると云ふことは却々困難である。獨り我國のみでなく、各國とも隨分之には頭を惱まして居るが、未だ適策が案出されない爲めに全廢するに至らないのみならず、全廢して却つて大なる失敗を招いた事實すら多々あるのである。一例を擧ぐれば、曾て佛國內に梅毒が甚だしく蔓延した際、政府では公娼さへ全廢すれば梅毒を根絕することが能きるといふ見地から、强制的にパリーの遊廓を閉ぢた。それまでは可かつたが、其の結果、私娼が跋扈して却つて梅毒が蔓延するに至つた。又墺國ではマリア・テレサ女王の時に、賣淫婦を悉く監獄に投じ、之に接觸した男子をも相當の處分に處するといふ苛酷な法令を出して取締つたが、矢張り私娼の橫行が反對に甚だしくなり、從つて花柳病が猖獗を極めたといふ風で、何れも其の目的は達し得られなかつたのである。こゝで混同してならない事は花柳病問題と醜業婦の問題とである。實際問題として風敎問題と花柳病問題とは全然別に考へなければならぬ、換言すれば、花柳病撲滅の問題が完全に講ぜられるに至つて、然る後初めて公娼廢止乃至私娼取締の問題が解決せらるべきものであるといふ事である。

然らば如何にして之を豫防撲滅する乎、之が最も重要なる結論となるのである。そこで、之は如何しても國家の權力の行使と、個人衞生の尊重との二途から進まなければなるまいと思ふ。

▼個人衞生の尊重

最も有效にして確實なるは本病傳染の機會に遠ざかることであるが併し是れは却々困難な事である。それは本病が常に性慾問題と始終して居るからである。近來性敎育の議論が沸騰するに伴れて、性に關する著書も尠なくないのであるが、眞に性慾に對して理解を有して居るものが幾許あらう乎。完全に此の問題が各自に理解されたならば、自然に本病傳染の機會に接觸せなくなるであらうから

從つて此の性慾問題の解決といふ事は刻下の急務であると云つてよい。尙ほ種々な豫防具や豫防藥もあるが之とても絕對に安全であると云ふことは能きない、却つて傳染の媒介又は誘導となる場合もあると云ふことだから、使用に際しては充分の注意と考慮が必要であらう。その他本病は單に性交のみによつて傳染するものでなく、手拭、ハンケチ、飮食器具、消毒不充分なる理髮具等も亦その媒介をなすものであつて、浴場において貸手拭を禁じたり、理髮店や女髮結の消毒を嚴禁されたのは、トラホームや皮膚病の豫防のみからでなく、實に本病の豫防上からも考慮されたことで、此の點に顯著なる效果のあることは疑はれないのである玆に於てか各自は性慾の問題を理解すると同時に、性交以外種々な物品を介して傳染するといふ事をも熟知し、明敏なる常識を以て判斷を誤らないやうに努めなければならぬ。

▼國家權力の行使　現今歐洲各國の中で瑞典、諾威、丁抹などが此の方法を採用し、而も相當の成績を擧げて居ると云ふことである。勿論之は法規によつて治療を强要するもので、其の大部分は無料診斷所や無料治療所の設備が完全してゐる爲め、法規の效果をして一層顯著ならしめて居るのである。併し法規の力によつてのみ其の撲滅を期することは困難であり且つ策の得たものでない。それは恰も思想問題を法規によつて解決せんとするのと同じことで、動もすれば反つて惡結果を生むことになるからであるが、諸種の積極策と相俟つて其の目的を達するに相當の效果があることは勿論である。

要するに本病の撲滅策としては、法規の勵行、道德、敎育竝に醫術の普及を完全にし、而も之を一つの機關によつて統一することが必要である。戰爭の慘害に戰慄した人類は、國際聯盟なるものを組織して、平和と幸福とを生み出さうとしたが、本病は戰爭のやうに部分的且つ一時的でなくして國際的、永久的であつて其の慘虐さは決して戰爭に劣らないのであるから、之は如何しても人類共同の責任として地球外に放逐する

やう各自互に相砥勵して之れに全力を注ぐべきものであると思ふ。殊に滿洲のやうに遊惰淫蕩の植民地氣分の浸潤してゐる所では、本病傳染の機會も多く、從つて罹病者も尠くないのであるから、之が撲滅機關を直ちに設けるか如何かといふ事は別問題としても、差當り輿論を喚起し、一般の注意を之れに向はしめ、さうして幾分なりとも本病の豫防に資し以て撲滅に步一步進みたいものである。

社會問題御研究

東宮妃殿下の御日常は當分の間ゆるやかにとの珍田太夫、島津女官長等のお薦めから之れと決つた御日課もなく唯だ運動だけは毎日缺かされなかつた玉體は此ため彌が上にもお健かに最近は一貫目ほど御體量が增し日の經つに從つて御主婦ぶり愈々鮮かに社會各方面の御研究に過ごされる外一週二三時間フランス語を山本御用掛から國語を芳賀博士に就てお學びになつてゐる一體久邇宮家に在した頃から社會事業の研究を深く思ひ立たせられ行政裁判所長官窪田博士の進講を一切ならず聽し召したが御成婚後は各社會事業、慈善事業關體から差上げる報告書や書物新聞などで絕えず世の移り變りをお察しになり特に時代の產物である所の我國「職業婦人」の將來に就ては殊の外御研究遊ばされて在すと申すことで現に去月十六日は背の宮東宮殿下が我勞働者の思想問題に關する進講をお聽きになるため帝大講師で宗敎學者として知られた文博矢吹慶輝氏を假御所に召されたとき妃殿下には進んで御學問所に成らせられ午前十時から一時間半に亘り我が勞働思想の趨勢及び現況を興味深く又熱心にお聽きになつた勿論斯ういふ專門的な御進講は兩殿下共始めて御聽取になつたことで博士の感服も非常なものであつたそして妃殿下は食事後御休みの暇もなく沼津からお歸りになつた天皇皇后兩陛下御機嫌奉伺のため此折にはたゞおひとりで宮城へ參內され皇后陛下と二時間あまりいろ〳〵お睦しく物語りがあつて御所へ還啓されたと申すことであるが社會問題の御研究は洵に畏き極みである。

都市の田園化と田園の都市化

吉川季治郎

『ブルジョアは田舍を都市の支配下に置いた、ブルジョアは都市の人口を田舍に比較して著しく增加した、斯くて多くの人間を田舍生活の白痴から救濟した』とマルクス並びにエンゲルスの『共產黨宣言』は言ふ。ブルジョアの所產たる都市が田舍人の白痴を救濟したとは、シンコヴキッチ敎授が冷評してゐるやうに、彼等がブルジョアに献げた唯一の讃辭であるが、田舍が都市の支配下に置かれて、都市が營利の中心となり、それによつて生るゝ富の餘剩が文化と享樂の機關を堆積集中して、都會へ都會へと人口を田舍より大都市に集中せしむることは何う考ねてみても喜ぶべからざる現象である。

帝都復興も、都市計畫も、一都市の人口增加率を過去の增加率より豫想推斷して數十年後現在に數倍する大人口を包有する大都市を建設しようとする。シャックの連續と泥濘の道路とより成る日本の都市は成程貧弱なる日本文化の象徴であり、日本ブルジョアの無智と無系統とを表白するに遺憾のないものであるであらう。然しながら之が改良を圖るに就いて彼等の把持する大都市主義は遺憾ながら都市計畫史上に於ける過去の遺物であり、明かにそれは時代錯誤の幻夢を繰り返すものである。

都市の人口十萬を超ゆるときは、その住民に與ふる利益よりも害毒の方が増加し、反つて生活の能率を減少するに至ることは、都市計畫家の一致せる所論である。都市は徒らに人口の多數を誇らんとする愚しき虚榮のために在るのではない。また都市は狹小地域に人口を集中せしめ都市の土地價格を騰貴せしめ小數の地主に利を得せしむるが爲に在るのではない。あらゆる人間の計畫は人間の生活の爲にあるヨリ好く生活能率を發揮せんがために企つる都市計畫（シテイ●プランニング）は十九世紀の遺物であり我々の産まんとするものは合同地方計畫（レジォナル●プランニング）で有らねばならない。

都市計畫は一都市のみの爲にあり、地方合同計畫は都市と農村の爲めにある。都市計畫は一都市の人口増加を豫想して膨脹する都市地域に對する計畫であり、地方合同計畫は一都市を中心とするよりも廣大なる相互經濟的補給地域に於ける總ての町村を一都市の中心に相聯合せしめて、相互の營利的機會を増加し、全住民の生活能率を増加せんとする計畫である。其處には中心都市と各町村の間に於ける交通機關、道路、上水、下水、土地區劃整理、公園、學校、橋梁、其他の改良が計畫せられねばならぬ。其のより廣大なる一中心都市の經濟的相互補給地域內における各町村は、各自にそれ〴〵の獨立性を有すべきもので有つて、その中心都市と合併しなければ都市計畫による生活の改良を享受し得られないと云ふが如きもので有つてはならぬのである。

倫敦では戰時中このレジォナル●プランニングの爲めに倫敦ソサイテイなるものが生れ、倫敦の附近一千平方哩に對する一の合同地方計畫を作製し、一昨年英國衞生省の都市計畫局では各專門家によつて倫敦を中心とする地方合同計畫の科學調査を開始した。また紐育では千九百二十二年五月十日紐育及び紐育外計畫委員なるものが生まれ、紐育を中心とする半徑五十哩內に於ける總ての地域に及ぶレジォナルプランニングの調査を大規模の組織下に開始したその地域は紐育、ニユー●ジャージー、カネチカツトの三州に渉るものである。其他猶はドンキャスター、南ウールスの諸都市、伯林、巴里、セントルイス、デトロイト、フキラデルフキア、バツフアロー市俄古、クリヴランド其他の都市に於て孰れも此のレジォナル●プランニングが計畫されつゝあるか或

はまだ現に實行の歩を進めつゝある。

「共產黨宣言」は都市人口の分散による農村との平均をその政綱に擧げてゐる。日本の淺薄なる農村振興論者は「都市」と「農村」とを人間社會生活の多角的狀態と見ることを得ないで、これを相對立せる狀態と解するが故に、たゞ都市の發達を呪咀することのみしか知らないのだ。農村は都市の緣邊たるべく而して都市の有する經濟的文化的利便を自己の中に吸收することを計畫することによつて、營利と文化の機會を國內の到る處に分散せしむべきである。都市を田園化せよ。田園を都市化せよ。それは都市計畫(シテイプランニング)に依つて出來るものではなく、之を要するに合同地方計畫(レジオナル●プランニング)に依つてのみ可能なのである。

米國留學中の印象

バチエラー●オブ●アーツ　北村貞子

私は十七歲のとき米國へ渡りまして、ボストンの高等女學校へ入學し、卒業後ボストンから百哩ばかり隔つて居るスミス大學に四箇年勉强し、卒業の際はバチエラー●オブ●アーツと申す學位を得、丁度八年目で日本へ歸つたのでございます。スミス大學は今から五十年前の創立ですが、私の入學當時の在學生は千六百人で、同期の卒業生は三百六十八人でございました。其のうち日本人は私一人であつた爲めでせうかそれは〳〵皆樣から親切にして頂いたのでございます。何しろ米國でも最も大きな女學校の一つでございますから隨分盛んなものでした。寄宿舍なども生徒百人を容れるのが七棟も建てゝあり、寄宿舍に這入れぬ生徒は、市中に散在する他の公認下宿と云つた樣な處に起臥して居ました。

學課は科學及び一般文學に涉つて修めるのですが其中でも各自の好む所に從つて時間の增減が自由ですから、私は天文學や心理學などにも多少趣味を有つて研究して見ました。米國の女學生は性來活潑で

すから、運動が非常に盛んで、室内ではバスケットボール、運動場ではテニス、バスケットボール、冬にはスケートが流行致します。それから必修科として一週に四時間づつ舞踏體操が課してあります。また彼地では縦ひ學資が無くとも技倆さへあれば自活が出來る樣に種々な補助團體がそれ〳〵組織されてありますから、學資の無い人でも自分の精神一つで立派に勉强が出來るのでございます。

然しながら私の考へます所では、米國婦人が一般に活潑で、何事をするにもテキパキして居る所は結構ですが、その代りどんな上流の婦人を見ても、日本の上流婦人を見る樣に、上品で萬事優雅と云ふやうな奥床しい點が無い樣でございます。悪く言へば出しやばりのお轉婆でせう。喜怒哀樂の情を抑へるを以て女子の美德と稱へて居る日本婦人の落着いた慌てない點と較べたら一長一短ありで何れを可とも申されません。然しスミス大學の校長の趣意は完全なる婦人を養成すると云ふにあるので、女子に高等敎育を施したからとて、決して男子と同じやうなものを拵へるといふ譯ではありません。ですから此の學校の卒業生は社會から歡迎され、世間一般の評判も亦非常に宜しかつた樣でございます。

日本では米國の婦人が多く獨身生活をするやうに言はれて居ますが決してさう云ふ譯ではありません何しろ生活の程度が高うございますから、境遇上或る事情の爲め已むを得ない人は兎に角、普通の女子は學校を出ますと皆結婚致します。また米國婦人の理想としても一般には學問をして男子と一緒に社會に立つて肩を並べ樣などと云ふ考へは持つて居りません。一家の主婦として、人の妻として、又人の母として、何處までも女性の天職を盡さうと云ふ精神は、東洋の婦人のそれと少しも變らないのでございます。けれども米國の婦人は自覺の念が强うございまして、日本の婦人の樣に一から十まで男子の力をのみ便らうとしないのと、幼い時分から心の自由を束縛されずに敎育されて居ます結果、一旦結婚をしても、何うかするとずん〳〵離別するやうな弊害が多いのであります。それで學校でも此事は一つの研究問題となつて居りまして校長始め二百人の敎師方は非常に頭を痛めて居られました。

尤も多數の卒業生中には、ボストン其他の地方の貧民の救濟事業などに一身を委ねて、極めて清淨な

美しい理想的生活を送つて居る方もありまして、社會生活の關係上、獨身婦人の日本などより多いことは事實でございます。そして人の自由を尊重する代りに、自分の自由をも束縛されないと云ふ主義ですから、一旦自分が斯うと定めますと、どんな事でも些しも躊躇逡巡する所なく、他人の思惑なんぞ念頭にも掛けないでどし／＼決行致します。

米國人の規律正しいことは日本人の採つて學ぶべき一美點でございませう。それが家庭内ばかりでなく、社會の秩序も井然と整頓して居ますから、社會と家庭との聯絡も附いて居る次第でございます。一例を擧げて申しますと、一週の中の月曜は洗濯日ですから、何處の家へ行つても皆洗濯をして居ります次に火曜日はアイロンの日、水曜と木曜とは大概訪問日と定め、土曜は掃除日ですから、金曜には其の準備を致すとか、そして日曜には教會へ行くと云ふ風に、仕事の順序が定まつて居ります。故に人の洗濯をして居る所へ突然訪問する樣なこともなし人が切々と働いて居る時にぶら／＼遊んで居るやうな暢氣な人もありません。斯う云ふ風に時間の經濟と云ふことが非常に尊重されて居りますから、總ての勤め人を始めと致して、一家内の下婢に至るまでも總て仕事が樂に出來るのでございます。

然し或點から申しますと、餘り規律を守り過ぎて人情の自然を缺いで居やしまいかと思はれることが無いでもありません。と言ふのは子供の育て方です教育の足らぬ日本の一般婦人から見ますと、餘程進んだ學問をして居る米國婦人の事ですから、子供の教育法の行屆いて居ることは實に感心いたしますが規律勵行の結果、烏渡奇異に思はれるやうな事實を往々見受けます。毎日の起床、就寢の時間は無論一定して居ますが、嬰兒の哺乳時間なども二時間に一回と定めて置きまして、其の時間以外には幾ら泣いても構ひません。日本なら珍らしいお客でもあると一つはお愛想の積りで八時に寢る兒を九時迄も起こして置きますが、彼の地では何が何でも其の時間が來ればさつさと寢室へ入れます。そこで母親の方でも手が空きますから、他所へ行くにしましても、ぞろ／＼と犬の兒のやうに伴れて歩かんでも濟むのでございます。後で子供が寢床で獨り淋しさうに大きな眼をパチ／＼やつて居るのも少時の間でやがて仕方なしに眠つて了うのでございます。

私が彼地へ行つて居ます中に段々お知合が出來まして、種々家庭の模樣をも見ましたが、其の中には羨ましいと感じたほど圓滿な寧ろ幸福な家庭も拜見いたしました。一體に夫婦間の情愛の濃かなことは何事も控へ目勝ちの日本人の眼から見ますと、何うかすると稍々醜いと思はせるほど濃厚で且熱心なものでありまして、家庭の温いことは實に譬へるに言葉もございません。妻も能く勤め、夫も能く勞はり眞に異體同心とは彼の事でせうと思ひます。其の睦しさは當時の私共の娘の身としては解りませんでしたが、一體に彼地の人は愛情を現はすに色々な表情術がありまして、言語又は動作によつて温かい心を交換致しますから、傍で見て居ますと、餘り濃厚に過ぎはしまいかと思はれるのでございます。然しそれは彼地の習慣ですから、米國の人々が見ましたならば、却つて美しい家庭だと思ふに相違ありません併し日本の女の樣におとなしい遠慮深い者の眼から見ますと鳥渡異樣に感ぜられるのであります。又彼地では親子とか夫婦とかの間も卒直なものであつて手を突いて叩頭をする日本のやうな形式的の尊敬を拂ひません。朝晩には子供が親に對つて、お早うとか、お寢みとか申しますが、其時には母親は子供を抱いて柔かいキッスを致しますのです。

彼地で子供を尊敬することはまた格別でありますが、それは子供の個性を完全に發揮させ樣として自由の行動を執らせる爲めで、つまり子供の權利を尊重するのだと申して居ます。ですから彼地の子供は一見我儘で亂暴に見受けられますが、何事にも自由を與へてありますから、子供の方では親の顏色をよむとか遠慮斟酌をするなど云ふ觀念は少しもありません。故に子供が如何なる高價な物品を破損する樣なことがあつても其の親は決して口穢なく罵つたり叱つたりは致しません。又子供がどんな危ない場所へ行つても、親が此方へお出でと言つて、日本式に止める樣なことも滅太にありません。高價な物品、殊に親が大切にして居る物品を破損したり、又は危險な場所へ顏を出すのは惡い事だと、子供自身に自覺するまで打捨つて置きます。此邊は日本人の子供の教育法と大分違ふ所でございませう。

それから同期の卒業生の中で一番先きに設けられました女の兒は之をクラスベビーと申しまして同級生が非常に悅ぶのであります。さうして其の親が若

し何事か困窮するやうな境遇に陥りましてもクラスベどーだけは一同が引受けてスミス大學を卒業さすと云ふ約束で力を盡して居ります。私の在學中にも時々此會が催されて居ましたが随分樂しい會合の様でございました。然し私共はまだ學生でしたから一度も其の様な會には臨みませんでした。

小説と其の社會的影響

プラスコ・イパーニエス

私は小説家であるから小説の御話しをしようと思ふ。抑も小説なるものは人間生活と切離して考へることの出來ないものである。我々はパンのみで生きて居られないがそれと共に我々は小説なくしては居られないのである。小説とは自己其のもの丶表現なのである。我々人間は幼時よりして此の小説から慰みと喜びを得て來たのである。諸君はまだ覺ゑて居らる丶だらう、私達が幼い時、まだ母の乳を飲んで居た時分、或は母親に添ひ寢して貰つた時代に母親の話して呉れた物語りを。その物語りには幼兒の魂を醉はせる不思議な泉があつた。又長ずると學校に行き文字を覺ゑて來る、するとその文字で讀み易い所の童話の本を買つて讀む、そしてそれを讀む私等は、その物語りの中に計り知れぬほどの慰安と喜びのあるのを感ずる。小學校を終へて中學に行けば次第に本當の小説を讀むやうになつて來る。

小説は藝術の神である。私は思ふ、全ての色がそれに納められてある、詩もあるが物語りもある、又歴史もあれば戯曲もある、それ等一切のものが小説の中に收められてある。言ひ換ふれば人間生活の全部を收め盡してゐる。此の藝術中の最高に位ゐすべき小説の出現は、近代文明の誇であり、又その光榮である。古代には小説なるものはなかつた。人類の生活、國民の生活から家庭生活なるものが發達した近代に於て、始めて小説が出來たのである。要するに小説は個人及び衆人の小集圑たる家庭と其の生活

を土臺にして出來たものなのである。

茲には主として小說の社會的影響に就いて述べて見よう。小說は社會に影響を及ぼすものか、或は及ぼさないものか、どうか。近代は小說萬能の時代である、小說流行の時代である、私は日本に於ても同樣だらうと思ふ。小說の社會的影響がないと云ふ道理はない。然らば小說とは何んぞやと云ふと、種々の說もあるが、私はかう定義したい。小說とは作者即ち小說家の理想つまり人生觀、宇宙觀、世界觀を一般社會人に傳へる道具であると。これは何人と雖も異論のないところであらうと考へる。即ち一度筆を執つて自己を代表し、自己の理想、感情を作品に盛り上げ、それを一般社會人に提供する。この場合讀者がその人の人生觀を端的に移入するは當然である。實に自分が一つの種を手に執つてそれを社會及び民衆の精神圈內に撒き散らすと同樣である。而して民衆は小說によつて人生を間接に味ひ、それを自己の體驗に照らし、そして社會觀、人生觀、世界觀を消化するのだから。小說の社會的影響は實に大きいと謂はなければならないのである。

併し小說は單に娛樂物であつてはならない、一般社會人の面白い玩具であつてはならない、可笑味とか面白味を讀者に移入するところもので有つてはならない。興味を中心にして存在するものは通俗小說である。眞に正しい小說は玩具たるの地位を讀者の前に得てはならない。然らば小說の正しい使命とは何か。まづ人間生活の進步に切實なものでなければならない。人間の內的生活、即ち精神生活の淨化と向上を保證する、否その進步の前に、一般社會人の精神を指導する事、それが眞の小說の任務となす心きである。更に小說は未來の社會、理想社會建設の精神的土臺とならなければならない。內には個人の內的生活を向上させ、外には一般社會を、更に延いては世界を未來の理想的天地へ指導する役目を負ふて居る。此の二つの小說の義務は決して輕いものではない、實に其の責任は重且大である。

現代の社會はどうであるか。世界には未だに專制國家の殘壘を見るのである。社會的不平等、社會的不合理のもとに、專制の桎梏を脫却し得ない國家が成立して居るではない乎。戰爭も絕ねないではない乎。現在の世界は吾々に理想の必要を强要してゐる吾々は努めなければならぬのである。

都市大連觀

◉毎度言ふ通りイヤ具眼者の認める通り都市大連は外觀上立派に見ゐるが內容は不備だ◉外形上にも釣合ひと平均がなくて非常に間の拔けた所があるが內味の不備は最も甚だしい◉西公園は舊態依然たりで公會堂も博物館も美術館も動植物園も無く市民の慰藉娛樂に適當な施設も乏しく從つて住居地好い都市とは謂はれない◉斯樣な外觀的物質的の都市に居ると人間の心が浮ッ調子になり利己的になり其の內味の貧しい環境は人間を惡化する◉田村滿鐵社會課長は此の點を憂ひて社會敎化の事に心を用ひて居るが金井滿鐵衞生課長も別項に掲げた通り都市大連の成つて居ない事を痛論した◉大連市民の多くが見榮坊となり外觀を修飾し不景氣を喞ちながら贅澤な生活をして居るのも都市的環境に惡化された結果である◉惡い環境に左右されないで之れに打克つ力を有つて居るのは支那人で日本人のやうに外觀修飾的の生活をして居る者は尠い◉支那人の個性には利己心が强く一面甚だ厭なところが有るけれども個性が强いので容易に環境に動かされず日本人のやうに盲目的模倣を事としない◉清新な娛樂機關が乏しい爲め青少年少女は兎角惡い方に傾き易く思慮分別の付いて居る成年者でも酒色方面にのみ發展する◉第一大連には都市計畫の方針が立つて居ない道路を開通するにも家屋及び住宅を築造するにも其場々々の切盛りで濟まして居るといふ有樣だ◉住宅難は緩和されたが住宅問題が依然として解決されないのは都市計畫の方針が立つて居ないで無暗に土地を擴け思ひ〱に家屋を建築したからである◉關東廳、滿鐵、市役所の三機關を中心に官民の重なる者と專門技術者を加へた都市計畫委員會を組織し今後の都市建設に對する策源地としたい◉さうすれば都市計畫の方針も立ち都市大連の不備な內容を充實し外觀上の不釣合ひや不平均を直すことも能きるだらう◉今の儘で進むときは都市大連は益々妙な都會となり市民の氣風を惡化し彼等をして物質的巧利主義の徒たらしめ累ひを後代に遺す事になるだらう◉まだ遲れては居ない今の內に早く都市計畫方針を定めないと內味は一層貧弱になり外形上にも種々の缺陷を生ずるだらう◉何にしても現在の大連市は無茶苦茶に發展したと云ふ丈けで都市としての價値がゼロだ。



田園都市と其の種類（上）

小川圖南

日本にも此の數年來田園都市建設論が高まり震災後の帝都は市郊外に田園都市を設けるとの事であるが未だ完全なものは殆ど無いと云つて可い一體この田園都市なるものは英國のエベネザー●ホーワードと云へる人が千八百九十八年「將來の田園都市」なる書を著して田舍の生活と都會の生活とを結合調和した一の獨立せる都市を建設すべきことを唱道したのに初まつたのである此の主唱者ホーワードの理想は歸するところ。

都會には社會的成功の機會多く享樂の設備に富み賃銀も高く職を求むる方面亦從つて廣きも其の生活たるや全く自然より閉され人は群衆の裡に在りて孤立的境遇に陷り勞働の場所は住宅より遠く隔たり物價と家賃は極めて高價にて生活を困難ならしめ塵埃と煤煙と貧民窟とは著しく人の健康と道德とを害す然るに田舍は自然の美に富み水清く日光麗かに土地と森林と牧場と遠く連りて平和の氣天地の間に充つるも社交と娛樂の設備を缺き賃銀安く職業は得難く公共の精神と自由進取の氣象は全然缺如し住民は唯昏々として太平の惰眠を貪るのみなるを以て此の二者を調和して自然の美と人爲的事業とを適宜に按配し人をして塵埃や煤煙のなき又貧民窟なき地と美しき花園とを有する獨立自治の環境に於て近代的文明の職業に從事せしめ且その家庭の和樂を享受せしむべし。

と云ふのである卽ち男と女とが各自獨特の天性と技能を有する如く都會と田舍もまた各自獨特の天性と技能を有するが故に都會と田舍とを結合せしめ此の樂しき結合よりして社會の新しき希望と新しき生活と新しき文明を得べしと言ふのである少し具體的に之を言へば例へば大阪のやうな大都會が一年間に五萬人宛の人口を増加して行くものとすれば之を從來の市內に雜居密集せしむることなく大阪に程近い田舍に廣い地面を求めて田野に圍まれた小都市を造り其の小都市の中には一定數の工場も建て又花園と空地とを有する理想的の住宅を建てゝ其の都市をば住宅區に兼ねて農業都市、工業都市たらしむべしと云ふのである。

更に換言すれば田園都市の理想は自然との接觸、都市的利便、家賃の低廉、自治、獨立、建設の美觀、田園生活の尊重とを實現せんとするものであるホーワードの著書は發刊の當時痴人の夢として寧ろ嘲笑を以て迎へられたが其後五年目にレッチウォース（倫敦より三十四哩）に彼の主唱した都市が建設せられ世人の驚異する所となり模範市として歐米諸國に採用せらるゝに至つたのである。

レッチウォスは斯ういふ目的で建設せられたのであるが之は田園都市協會（ガーデンシチーアッソセーション）と稱する株式會社の手に經營せられた卽ち同會社では三萬の人口を限度とする所の田園都市を造る目的で一エーカー（千二百坪）二千圓といふ素敵な廉い直段で四百五十六萬坪ほどの片田舍の地所を買入れ其のうち百四十四萬坪を市街、宅地及び工場地に宛て三百十二萬坪を耕地に當てたのである此の會社は固より營利のために出來たものでなく何れも田園都市實現の熱心家に依りて組織せられたものであるから工場、店舖、農場の區劃も專門家の設計に基いて嚴格に確定され上下水道は固より電燈瓦斯、ゴルフ、テニスクリケット等の遊戲場、學校、幼稚園、敎會、劇場、倶樂部の設備に至るまで何一ッ間然する所なく道路及び家屋の種類體裁は何れも美術的且衞生的に設置せられて居る例へば同市に於て千二百坪の土地に十軒以上の家屋を建てることを禁じ家屋の周圍には必らず一定の花園と空地を設けなければならぬ事になつて居る如きは何れも前述べたホーワードの理想を實行したものである斯んな風であるから市內に彼の恐るべき貧民窟などが

出來やう筈がないのである。

それから又會社はその利益配當を年五朱に限定してそれ以上の利益は都市並に住宅の改良事業に振向ける事にして居るから都市に有勝な土地の投機や土地の兼併なごは起りやうがない地價が安くて交通の便があり且勞働者を求むるに都合が良いからして企業家は此處に特種の工場を設ける而して市の外圍に在る耕地には菜園を作つたり養鷄や養蜂を行ることが出來るから勞働者その他の人の家族に取りても直接に若くは間接に大なる家計の助けになる譯である家賃なども非常に安いもので一月九圓から二十圓までゞ立派な家屋に住むことが出來る夫れに倫敦から汽車で五十分ほごであるから移住者が盛んに殖ゑて明家がドシ〳〵塞がる千九百三年初めてレッチウォースの出來た年には人口が僅かに四百人しかなかつたものが其後千八二千人、五千人、七千人、八千人といふ風に殖ゑて行つた種々の設備が出來るのは勞働保險なごから低利な金を融通して貰つて安い土地を買ひ材料を纏めて買ひ更に澤山の家屋を建てるからで營利を目的とする商事會社の住宅經營なごの到底企て及ぶ所でない。

レッチウォースは實にホーワードの理想に基いて設計せられた一例で眞正の田園都市である卽ち之は全く他と獨立に住宅區に兼ねて仕事の能きる別天地を形成するのであつて嚴格な意味に於ては田園都市なるものは此種のものゝ外にあることがない併し今日普通に田園都市と唱へて居るものは尙ほ此外にも郊外都市（ガードデンサバーブ）と勞働者植民地（ウアークメンスコロニー）を引きくるめて言つて居るのである郊外都市と言ふのはレッチウォースのやうに現存の都會と全く飛び離れた田舍に小都市を新設するのではなく次第に發達し行く都會に接續した郊外の空地を利用して此處に理想的な市街、住宅、工場乃至は農園を設置するのである英國のハンムステッド獨逸のヘスラウの如きは其れに最も適合した都市である。

所謂郊外都市

郊外都市の一例はハムステッドとヘスラウであるがハムステッドは社會改良事業を以て有名なバーネット夫人の努力に依て出來たもので倫敦の中心から汽車で三十分程の處に在る千九百五年にバーネット夫人は郊外都市の目的のために一のトラストを組織して此町の

郊外で約三十萬坪ほどの土地を買取り一萬人乃至一萬二千人の居住に適する家屋を建築した。

此等の家屋は主として中流以下の會社員や熟練勞働者等の住宅を目的としたもので家賃なども月十六圓と云ふ極めて安いものである而して此トラストなるものはツマリ借家人の組合であつて此處に居住するものは必らず組合の株(持分)を持たなければならない尤もその株たるや入會のとき僅ばかりの出資をして置けば後は毎月家賃の形で幾分づつ成し崩しに拂込むで行けば可いのであるから借家人に取りて毫も苦痛はない而して組合に利益があつても之は各自に配當せずに積立てゝ置くのであるが組合員に何か必要の起つた場合には組合の規則に基いて拂ひ戻して貰ふことも出來るソレから組合員が何處か他に移轉するやうな場合には是まで拂ひ込んだ高に應じて組合から一定の金額を返還して貰ふことが出來るのであるから至極便利である。

要するにハムステッドの住宅經營なるものは一定數の會社員なり勞働者なりがトラスト組織の下に郊外曠闊の地に於て美術的にして且實用的な家屋を共有し得るやうに出來て居るもので中等以下のものに取りては經濟上にも又衛生上にも其の生活に取りて實に此上もない理想の住宅區である。

朝鮮の各種社會事業

總督府の直營、補助後援、民間の社會事業

朝鮮總督府において施設した救恤に關する事業のうち救貧事業に屬するものは水風害及び火災等の罹災者救助、行旅病人死亡人の救護並びに取扱、老衰、幼弱、不具癈疾、疾病者等の賑恤、孤兒の教養、盲啞教育及び貧民救療等を主なるものとし效果見るべきものがある各道においてもまた私營救濟事業に道地方費の補助を與ふるなどして年々その擴張を講じ大正八年においては全羅北道、忠清南北

道以北の諸道に旱害甚だしかつた爲め國費その他一千餘萬圓を投じ同年より翌九年に亘りて臨時旱害救濟に關する施設を行つた。

防貧事業にありては主として府郡島臨時恩賜金授産費を以て之を行ひ恒産なき者に生業を授け生活の安定を得せしむるを本旨とし各道に亘りて農林、水産、工業等に關する簡易な傳習を行ひ兼ねて生産器具、種苗等を配與し更に大正九年度において授産費の一部を割いて社會救濟事業の經營又は補助を開始し一方京城、平壤、大邱各府其他の都市においても社會救濟を目的とする常設小賣市場、共同宿泊所、職業紹介所、人事相談所等の經營を爲すに至つた。

朝鮮における社會事業行政は從來總督府の內務局第二課內において處理し來つたが大正十年七月事務分掌規程を改正して第二課を社會課と改稱し各道もまた多くは新たに社會事業係若くば社會課を置き玆に社會事業の取扱に關し其の面目を一新する事となつた斯うして感化救濟及び地方改良等の社會事業に對する總督府の補助は大正十年度から更に其の範圍を擴め一意斯業の發達を援助した。

社會敎化に關しては其の專任指導者を隨時地方に派遣して巡回講話をなさしむる外更に內地より學識經驗ある講師を聘し主として學校職員のため社會敎化の講習會を開く事にして居る尙ほ地方農民に勤儉貯蓄及び副業を奬勵するため契及び組合を組織せしめたが現今の組合及び契の數は九千五百八十一、會員數は九十萬八千七百四十七名でその貯蓄額は四百二十六萬五千三十二圓に達した。

各道地方費においても新たに社會敎化に造詣深き指導者を特置し之をして道內各地に就いて活動寫眞巡回講話を爲さしめ漸を逐ふて敎化の徹底を期して居る。

輓近都市における住宅難の實況に鑑み京城及び大邱においては府營住宅を築設して住宅難の緩和を圖り京城、平壤、大邱、群山、釜山、元山並びに淸津の各府には公設市場を設け平壤府にては此外尙ほ公設浴場、公設理髮場、人事相談所、共同宿泊所及び兒童相談所を設け仁川府においては勞働宿泊所、職業紹介所、大邱府にては共同洗濯場、新義州府にては勞働宿泊所、職業紹介所、簡易食堂及び共同洗濯場を經營し更に全羅南道においては資金を貸與して公共的の質業を營ましめて居る。

朝鮮においても近來地主と小作

人との間の爭議が漸く複雜となる傾向があるので總督府では之が調査研究の歩を進めつゝあるが忠淸南道においては地主小作人間に介在して種々の弊害を醸す舍音の講習會を開いて其の改善を圖り又全羅北道と慶尙北道とにては地主會を開いて地主對小作人の諒解を得せしめ相互の推讓に依りて爭議を未然に防ぐに努めて居る。

民間有志者又は布敎團體等にて經營する社會事業は……

社會事業聯絡研究機關	二
社會事業經營助成機關	二
委員制度	一
隣保事業	三
人事相談	三
私設低廉住宅	一
宿泊救護	一
職業紹介	二
貧孤兒の養育	二〇
徒弟又は勞働者の敎育	七
特殊敎育事業	二
施療救療事業	二三
窮民救助	一六
養老事業	一
出獄人保護事業	二六
雜事業	一
合計	一一一

總督府及び各道においては是等の事業に對し補助金又は相當援助を與ねて其の施設を全からしむると共に又その指導奬勵に力を致して居るので民間有志又は布敎團體等の社會事業も今や日を逐ふて漸次振興の域に向つて進みつゝあり從つて朝鮮における社會事業は今後益々發達するであらう。

職業紹介事業改善要項

中央職業紹介所特別委員會の答申內容

中央職業紹介委員會の特別委員四名は職業紹介事業改善に關する諮問に對し左記の案を得たので五月三十一日社會局において委員總會を開き報告議決をへたうへ福田委員長から內務省に對して左の要項を答申する事になつた。

一、政府は將來適當の時期において團體又は民間の職業紹介事業を國營とする事

二、政府は將來適當の時期に於て職業紹介制度と關聯して失業保險制度を設くる事

三、將來職業紹介事業を國營とする方針の下において左の事項を實行する事

(イ)職業紹介所の全國的普及を圖るため職業紹介法施行令第一條の規定を勵行し必要と認むる市町村に對し職業紹介所の設置を命ずる事

(ロ)產業、職業、地方若くは季節等の關係上特殊の必要ある場合においては專門的職業紹介所を設置する事

(ハ)職業紹介法施行規則第九條に依り連絡事務を司らしむる指定職業紹介所に國庫は費用の全部を交附する事

(ニ)職業紹介事業の連絡統一を圖り且機能を發揮せしむるため地方職業紹介事務局を增置し之を現業化する事

(ホ)中央職業紹介事務局に產業に關する學識經驗ある職員を置き地方職業紹介事務局に產業別部門を設くる事

(ヘ)中央及び地方職業紹介事務局に勞務官を置き管轄區域內の產業狀態及び勞働事情を調査し職業紹介機關の連絡を圖り勞働移動の事務に從事すると同時に職業紹介所の事業監督を爲さしむる事

(ト)職業紹介所費國庫補助金は國營を實施するまで建築費及び之に伴ふ初年度調査費の外經常費その他の諸費に對し少くも之を二分の一に增額し尙ほ宿泊所その他の附帶事業に對し同じく二分の一の國庫補助金を交附する事

(チ)職業紹介所職員の優遇並に地位の安定を計るため必要なる職制を設くる事

(リ)政府は職業紹介所職員の養成機關を設置する事

四、大都市職業紹介所の內容充實及び擴張を計る事

五、主要地方に產業別、職業別男女別及び少年の職業紹介所を設け又は職業紹介所內に各專門の部門を設くる事

六、職業指導及び選擇の目的を達する爲め職業紹介所に適當なる施設を講ずる事

七、職業紹介事務に關する通信及び交通機關の利用に就いては料金の減免、電話架設の急施、其の他出來得る限りの利便並びに特典を與ふる事

八、集團的解雇又は雇入れを行ふ場合に方りては其の事業主より豫め地方職業紹介事務局に其旨申告せしむる事

九、職業紹介所の利用を增進する目的を以て缺員ある時は事務主より之を職業紹介所に申告せしめ且つ職業紹介所に顧問委員會を設くること但し該委員には事業主及び雇傭者の利益を代表し得ると認むるものを各同數宛加ふる事

十、職業紹介所の機能を發揮する爲め勞働組合と連絡を保ち殊に求人開拓に關しては共働するに努むる事

十一、政府は公共團體又は失業者再教育の目的を以て職業輔導に關し職業紹介所と連絡して適當なる施設をなす事

十二、政府又は公共團體は都市及び農村における內職の紹介及び輔導に關し之れに最も適當なる機關を設け且つ進んで內職制度の改善を計る事

十三、政府又は公共團體は官營及び公營事業における雇傭者の採用をなすに方り必ず職業紹介機關を利用する事

十四、政府又は公共團體は現下の實情に鑑み土木建築其他の官公營事業を適宜按配して勞務の需給調節に努むる事

十五、日傭勞働紹介の成績を擧ぐるため職業紹介所における賃金立替拂ひの制度を設け又就職を容易ならしむるため勞働用具の貸附を行ふ事

十六、政府又は公共團體は職業紹介所事業に關聯し左の事項につき相當施設をなす事

(イ)日傭勞働の供給請負制度の改善發達を計る事

(ロ)日傭勞働者が災害に罹りし時は之れに對し適當なる扶助方法を講ずる事

十七、職業紹介所は被紹介者にして必要ある時は就職地までの旅費を貸附する事

十八、職業紹介制度の改善に資する爲め勞働者募集、工女供給、內職の仲介、土工、坑夫親方下請負制度、家庭勞働並びに新聞廣告に依る職業紹介等を調査し而して之れが適當なる方策を講ずる事

十九、有料又は營利を目的とする職業紹介事業の取締規則を速かに制定する事

二十、職業紹介法に依り設置する職業紹介所の外は職業紹介所又は之れに類似の名稱を用ふる事を禁止する事

經調と社會問題

帝國經濟調査會にては去月中會議を開き人口過剩の對策たる移植民問題と共に住宅の供給並に改善に關する方策を審議し更に生活問題と國民保建上の事を議し而して之が財源としては貨幣改鑄益金を充當して來たが其後右は自作農創立基金及び教育資金の財源に繰込むことに決したので住宅供給に關する低利資金は他に適當の財源を發見し主として勞働者階級の住宅供給並に改善を急ぐ事になつた猶ほ前記二件の外に失業救濟の方策を議する筈であつたが國民保健問題の解決策として已に健康保險法の制定を終り目下之れが實施につき準備を爲し何時にても實施し得る時期に達してゐるから之に關連して海員の健康保險が問題となり延いては傷害保險及び失業保險等の諸問題を解決すべき時期に達して居るけれども是等は經濟會議の問題とせず內務大臣に於て解決することなつた更に勞働組合認可の時期問題は追つて審議するよし。

調査紹介

大連市内外に於ける家屋並に住宅の現勢

高橋月南

大連の住宅問題は解決されたであらう乎、否、解決されない、僅かに緩和されたに過ぎない。緩和された重なる原因は、歐洲大戰後急轉直下的に經濟的大變動を來たし、一般商取引が漸次緊縮された結果大小幾多の會社及び商店が減少し、それに從事して居つた社員、店員のうち大連を引揚げたものもあり從つて大連の人口は大戰當時と大戰以後とで著しい相違を生じたにも拘らず、滿鐵會社を始め、大連市役所、大連郊外土地會社等が盛んに家屋を新築したので、家屋住宅の增加と共に一昨年末次第に空家が增加し、そこに住宅難が緩和さるるに至つたが、併し住宅問題は依然解決されて居ない。

滿鐵で會社は社員收容のため滿鐵自身で建築した以外に代用社宅なるものを沙河口に六百餘戶ばかり新築した。大連市役所では一百萬圓の低資を以て譚家屯及び南山麓の兩地に約一百戶の貸家を建築した大連郊外土地會社は營利會社ではあるが東拓會社の了解を得て月賦償還の方法に依り希望者の思ひ〳〵に二百五十戶程の住宅を老虎灘街道に建造した。以上の外南山麓拂下地には高等住宅地なるものが特設され、それが七八十軒ばかりある。それと前後して滿鐵社員の組織に係る共榮住宅組合が南山麓に百二十戶からの大小住宅を建てた。更に關東廳は譚家屯と南山麓大和町方面に官舍を增築した。戰後財界の不況にも拘らず獨り大連の建築界のみは破竹の勢ひで進んだ。這うした不自然的に膨脹發展した結果次第に空家が增加したのである。最近の取調べに依れば、大連市內から伏見臺、聖德街及び沙河口一帶に

かけて約一千二百戸の空家があるといふ事で、之によつて看ると、丁度こゝ兩三年間に新築された家屋及び住宅だけが空家になつた譯けだ。

今各方面に亙つてその大要を述べて見る。

山縣通り方面　此方面は巨屋の集合してゐる町で、大阪商船、國際運送、福昌公司、大連汽船日本郵船、古河合名、三井物産、鈴木商店、三菱商事、大連税關、大連取引所等の外、猶ほ特産物、貿易商、海運業者等の大小數十軒の會社又は商店があつて、一時は會社町の異名さへあつた位に殷賑を極めたが、昨今は往年の盛時と違つて空家のまゝ硝子窓さへ破れてゐる大きな家がザラに在る。住宅事務所兼用の家屋も相當にあるが其の多くは空家で何時になつたら埋まるか一寸見當がつかぬ。

大連隨一のビルデングとして誇つた田中ビルデングも、引續いて建設された加藤ビルデングも、大倉ビルデングも、今日は何れも好況時代の遺物として存在して居るに過ぎない。之等のビルデングも其の半數は空いてゐる。斯る狀態であるから、家賃が低下して居るだらうと思ふと大きな違ひで、一寸した事務所向きの住宅兼用家屋で一箇月百圓以上だ。夫れが差して廣い家ではなくお負に建物が荒廢して修繕に巨大の費用を要するといふ始末だ。何れも銀行或は東拓の擔保に入つて居るので、安い家賃で借すことの出來ない事情があり、それで空家の多い割合に家賃が低下しないのである。各種ビルデングも室の大小に依つて異なるが、先づ七八十圓から百二三十圓までゞ、冬季は此の外に採暖料を負擔せねばならぬため、相當高率の家賃になる。

市内目拔きの場所　商業の中心點とも言ふべき浪速町、伊勢町、大山通、奥町、信濃町、磐城町方面は遉が目拔きの場所柄だけ空家は餘り見受けないが、一般營業狀態の不振なることは驚く許りである。それは各店舗を飾つて居る商品を見ても能く分る。大賣出しとか、夏物見切りとか、堂々たる看板の下に陳列された商品は、何れも安物ばかりで僅かに季節向きを糊塗して居る哀れな狀態だ。從つて夫等より回收さるゝ家賃も思ふやうでない。一時の高價から比較すれば、四割も五割も低下した處はあるが、家賃の支拂は滿足でない樣だ。

伏見臺の一帶　伏見臺一帶は大正八年中に住宅緩和の急先鋒となり、大連民政署は土地を競賣

に附し、大黑町その他の大通りには店舗向きの家屋が建築されたが、大體は殆んど住宅である。處が此の方面にも空家が激增し一昨年來空家の儘になつて居るのが澤山ある。この方面の家賃は市中住宅に比べると平均二割方安價だ。チト不便な點もあるが水道、電氣、瓦斯、下水等の設備は遺憾なく整つて居る。唯だ缺點とする處は、小崗子に接近しゐる事と支那人と雜居の爲め非衞生的である事と、それから窃盜の多い事である。市中に於ける盜難の七八分は伏見臺方面であると云ふ有樣だ。夫れで警務署も特に警官派出所を特設して取締つて居るが、留守宅と見れば白晝でも窃盜が侵入するので、此邊のものは尠なからず脅威を感じて居る。某會社所有家屋の如きは、床板を剝がされ、便器は勿論、水道の金具まで窃取されたといふ事だ。斯る狀態である爲め新築家屋が多く家賃も比較的安いのに居住者が少なく隨つて空家が多いのである。同地方面建築中は財界も今日の如き慘狀を呈して居なかつた爲め、割合に高級な住宅が建築されたが、現在ではこの高等住宅が空いて居て殆ど借手が殆んどない。山縣通り方面同樣こゝ暫らくは充實困難かと思はる。

市外聖德街方面

元來聖德街の建設された動機は、大連に居住する聖德會所屬の勞働者卽ち大工、左官、石工、其他の土木現業者の住宅を建てるわけで、之がため大連聖德會を財團法人組織に改め、政府より二百萬圓の低利資金を融通して貰つたが、當時の理事者が方針を誤つた爲め、大失敗に終つたのみならず、刑事問題さへ惹起し、當初の目的は全く裏切られ、現在では肝腎の勞働者が居住せずして、その家屋は一般者に貸與し、大連聖德會は貸家業を營むやうな事になつて了つた。同會の所有する家屋は凡そ左の三種から成る。

第一種　二階建、階下土間、四疊半、階上六疊、三疊二間で、家賃は一箇月二十五圓

第二種　平屋建であつて、八疊、六疊及び二疊より成り、家賃は一箇月十八圓

第三種　同じく平屋建であつて、六疊及び四疊半の二間より成り、家賃一箇月十二圓

第一種の二階建は何れも店舖向きであつたが、借家人がないので、住宅向きに改造し、階下を六疊二間位に增設した處、或は平土間を應接室に改築した處などは二十七圓で貸與して居る。處が現市街地と餘り懸け離れて居るのと、建築の粗雜な爲め、希望

者尠なく、一時同方面のみで二百戸からの空家があつたが、然し本年四月から沙河口までの電車均一制が實施されたので、同地居住者に多大の便利を與ふと同時に、聖德會も從來の方針を一變し、確實なる借家人であれば其の希望によつて一部改造も加へる從前の居住者に對しては家賃の割引奬勵法を講ずる等、凡ゆる手段を設けて貸付けた結果、第二種及び第三種は殆んど空家なく、第一種も一時に比し空家は餘程減少した。猶ほ同地の住宅の特色は支那人の居住者が一軒もない事と、夫れに海岸近くで空氣新鮮に、夏季涼しきと共に、冬季も比較的暖かい事である。大大連が出現して沙河口と連絡するに至らば聖德街方面は自ら發展することであらう。

市外沙河口方面

此の方面は沙河口滿鐵工場の附屬市街として建設された處で、小さい町ではあるが、田舍町のやうに一通り整つて居る。市街としては聖德街、譚家屯及び老虎灘街道よりも早く開設され、住宅も相當にあつて、住宅難の甚だしかつた當時、この沙河口の住宅によつて幾分それが緩和されたものだ。處が聖德會の勞働者住宅が前記の如く失敗した結果、この聖德街で大連と沙河口の居住者を吸收したので、一時は沙河口の小住宅は約半數も空家になつた。また滿鐵工場では戰後の整理とあつて職工の大淘汰を斷行したので、沙河口に益々空家が殖ゑ、そして淋しくなつた。居住民は發展策の一として劇場を建設し、猶ほ民營市場の設置、沙河口星ヶ浦間の道路新設、電車の市內編入等矢繼ぎ早に運動を試み、市場も設置され、劇場も開設されたが、衰頽を救つて舊態に復するのは容易な業でない。その重なる原因は聖德街の住宅が一般的貸家となつた爲めである。然し本年四月から同地までの電車賃金が市內と同樣になつたから幾分調節された事であらう。聖德街にしても、沙河口にしても、二十圓前後の手頃な小住宅は何れも拂底してゐる。空家は今でも依然として店舖向きに多い。

老虎灘街道一圓

大連市外洗兵臺から鹽田停留場に至る沿道兩側に二三年前から新しい洋式の住宅がポツ〳〵建築された。青葉隱れに見ゐる形狀の樣々な住宅がこれは六十萬坪の廣地を脊負つて立つた大連郊外土地株式會社の經營に係り、新文化村など呼ばれて居る。會社設立の際は二千萬圓といふ頗る尨大なる資本を以て發起されたのであつたが

財界の反動期に入るや、その資本を一千萬圓に半減し、堅實に經營することゝなり、更に運轉資金として百萬圓の低資を借入れ、斯くして此の謂ゆる新文化村の建設に着手したのである。同地一帶の住宅は月賦償還の契約のもとに滿鐵社員其他の社員連が宿舍料を引當てに建築したのであるから、千態萬容で建物その物は或は新式かも知れないが、何れも居住者の自已本位から設計せられた爲め一般向きでない昨年までは相當建築するものもあつたが、本年になつて東拓會社が低資貸出しを中止した爲めに、郊外土地會社の事業も遂に行詰つて、月賦償還の引受けが出來なくなつた。從來貸付けの金員さへ充分に回收が出來ぬといふ有様だ。同地の住宅は各自の居住であるから貸家は殆んどない。偶々貸家目的に建築された家は市中に比し其の家賃が三割方低廉である此の方面も滿鐵の諒解を得て瓦斯の引込と共に電車の均一制に均霑した。關東廳へ請願した小學校の建築も出來、電話の架設も郵便所の設置も出來、次第に内容が整つて來たが、郊外住宅としての理想を實現するには一段努力を要する事であらう。

市内外の住宅組合

大連市内に存在する住宅組合は滿鐵社員を以て組織せる南山麓の共榮住宅組合のみで、市外には本年四月關東廳より許可された二三の住宅組合あるも、空家の多くなつた事と依然たる不況との爲め、未だ住宅を建てる迄には至らない。共榮住宅組合のことは既に紹介したが、本組合は滿鐵會社保證の許に東京の保險團から低利資金壹百萬圓を借入れ、それを基本に出來上つたのであつて、郊外土地の住宅と同樣、社員の宿舍料を引當てに月賦償却の方法を採つてゐる。併し之れも最初の計畫と齟齬し資金の回收難を訴へて居る。殊に建築が粗雜であつた爲め翌年これが修繕に豫想外の出費をなしたさうだ。夫れに此の組合加入の社員中に淘汰されたもの、轉勤したもの、或は辭職して内地へ歸還したもの等あつて、組合組織に龜裂を生じ目下その善後策に苦心してゐる狀態である。それで共榮住宅は已むを得ず内規の一部を改正し、その住宅を社員外のものにも貸與することにし、現在の所有者に事故を生じた場合は、その住宅を大連汽船會社員その他確實たる會社員に貸付け、家賃收入をその月賦償還の方へ當てゝ居るさうだ。當初社員のみの住宅組合として組織されたものが時の變遷によつ

て斯くの如く一變したのは遺憾だが併し斯うなつたも蓋し事情己むを得ない事であらう。

滿鐵會社の社宅

滿鐵會社は事業の膨脹につれ社員の增加を見、それが住宅に困却したので社員の市內散宿を許可したが、市中の貸家業者は大正八年の好景氣時代よりウンと家賃を値上げた結果會社は其後一方に極力社宅の增築を急いだ。その應急社宅として建築されたのは寺兒溝の山手町及び日の出町の一圓とそれから沙河口第十六區より第十九區までの二階建であつた。棟割上下四戶及び六戶住ひで約四百戶近く建てられた。それと前後してアパートメントハウスの元祖として薩摩町に關東館が新設され、更に獨身社宅として大山寮、南山寮、伏見寮、益濟寮等何れも十數萬圓の建築費を要した大きな家屋が建築せられ、尙ほ散宿者の全部を收容する目的で故早川社長時代に沙河口市街と聖德街との中間平野に約六百戶の代用社宅を建築せしめた。それと殆んど同時に伏見臺中央試驗所先に數千戶の二階建の社宅を建築した。それで從來市中に散宿してゐた社員は之等の新社宅に引揚げ、そのお蔭で市內の住宅難は緩和されたが、それと同時に大連市中到るところ空家が滅切り增加したのである。

以上の外、前記の如く大連市役所が低資壹百萬圓を投じて譚家屯及び南山麓に百數十軒の貸家を建築し、關東廳の官舍も增築され、好況時代に比べて人口の減少し行く場合に官舍、社宅、組合等の住宅など續々新築されたので、遂に現在見るが如き空家の激增となつたのである。尙ほ之を一面より觀察すれば、關東廳、大連市役所、滿鐵會社等の間に都市計畫と住宅問題に對する一定の方針がない爲め、遂に今日の如き結果を招來するに至つたものとも云へる官舍所在地が十分でなく、譚家屯には百數十戶の住宅あるにも拘らず、電車の便なく、電車は恰も平原の如き無人鄕を馳走して居るといふ有樣では困つたものだ。要するに住宅難は緩和されたが住宅問題は依然として解決されて居らぬのである。

○○○○○○○

支那民俗研究會 週刊「極東」の編輯長であつた宮野庄之助氏は大連市惠比須町九七に支那民俗研究會を設置し其の第一聲として支那民俗文庫第一編「道教百話」を出版した宮野氏は篤學の人で殊に東洋文化に豐富なる造詣と趣味を有つて居るといふ事である切にその健全なる發展を祈る

在滿鮮人に對する衞生施設

在奉天 田原漠東

南滿洲及び東部內蒙古地方に在住する朝鮮人に對する社會的諸施設は、僅に申譯的な敎育施設と鼻藥的な衞生施設とがあるのみで、全く閑却されて居ると言ふも過言でない。在滿朝鮮人に對する社會的諸施設に關しては、過般奉天で開催した領事會議の席上で緊急問題として論議されたが、此れに先だち解決すべきは統制機關の確立で、現在のやうな外務省朝鮮總督府、領事館と言ふ三頭政治では、何れが主として在滿朝鮮人を統制すべきか判然としない爲め自然に責任のなすり合となり、經費の如きも特に在滿鮮人に對するものとして豫算に計上される譯でもなく臨時費の中から便宜的に捻出すると云ふ有樣である。それで在滿鮮人に對し積極的に社會的諸施設を爲さんとするには、先づ以て統制機關を確立せねばならぬと云ふ結論に到着したが、併しそれは他日根本的に研究する事になつた。斯くの如くして在滿鮮人は十年一日の如く惠まれぬ環境に置かれてあるが、現在實施されて居る社會施設の一である衞生施設の沿革及び現狀に就き奉天總領事館朝鮮課に就いて調査する處に依ると概要左の如し。

前述の如く在滿鮮人に對する社會的諸施設は外務省、朝鮮總督府、領事館の三機關の共同責任の下に行はれて居り、その他一部附屬地在住の鮮人に對しては滿鐵會社及び赤十字病院の救濟的施療が行はれて居る外、先年領事館管內の朝鮮人に對しては大阪每日新聞社の巡回施療が行はれた。されど滿鐵會社赤十字病院、大阪每日社の巡回施療は一時的のもので、外務省、朝鮮總督府及び領事館等の衞生施設は至つて消極的であるが、全滿に亘り施療機關を常設し、囑託の鮮人醫師を駐在せしめ、専ら施療の衝に當らしめて居る。目下奉天を初め囑託醫の駐在して居る處は安東、撫順、鐵嶺、長春、吉林、間島、白音太來、通化、柳河、興京、輯安、三源浦、哈爾賓海林、新民、長白の諸地方にして、奉天の協濟病院

を除く外は小規模で且不完全なもので有るけれども年々相當の患者に施療しつゝある。此等の施療機關が外務省或は朝鮮總督府の補助を受けて開設されたのは去る大正十一年の十一月で、當時朝鮮總督府は在滿鮮人に對する文化施設の經費として年額三千六百九十圓を支出し、先づ奉天十間房に協濟病院を開設し、鮮人醫師維英煥氏を院長とし、同時に興京、通化、柳河の三地方に分院を設けた。それが抑々滿洲に於ける鮮人救濟施療の嚆矢であつて、爾來外務省よりも臨時救療費を支出し、各地に施療機關を設置し、以て今日に至つたのである。目下年々三萬餘圓の救療費を朝鮮總督府及び外務省より支出し、各地在住の鮮人にして貧困の爲め自ら施療し能はざる病者に對し無料施療して居るが、大正十二年中各分院に於ける施療患者の數を示せば

▲奉天	三三二七名	▲海林	四五二七名
▲撫順	二八七八名	▲一面波	九八九名
▲新民(一月より四月まで)	六八二名	▲長春	七五〇〇名
▲白音太來(同上)	九六三名	▲輯安	八九五名
▲通化	二六〇四名	▲鐵嶺	七六八五名
▲安東	五七八二名	▲長白	一〇三名
▲興京	二八九六名	▲樣子哨	一三七五名
▲柳河	九八九名	▲哈爾賓	六四五〇名
▲三源浦	七八六名		
▲吉林	三五七二名	合計	五四〇〇三名

にして、以上のうち大正十二年十二月中に於ける奉天の取扱患者は五百九十名であるが、今その病名及び患者數は別記すれば左の如し。

消化器病	一一一	全身病	二八
呼吸病	七二	神經系病	三二
眼病類	三七	耳病	二〇
皮膚病	五〇	鼻咽喉病	七
外傷	五二	泌尿生殖器病	一三
花柳病	九	淋巴線質病	九
循環器病	七	運動器病	一九
傳染病	一〇	新生物	九
齒牙病	一七		
寄生虫病	八八	合計	五九〇

之れに由つて之れを見る時は、罹病者の最多數は消化器病で、それから呼吸病、眼病の順序であるが消化器病患者の多數を占むる所以のものは、在滿鮮人の多くが農業從事者で、粗食、暴食、暴飲の結果である。總じて在滿朝鮮人は衛生思想に乏しく、四五パーセントは罹病患者であると稱されて居る。然かも彼等は殆んど其の日の衣食にさへ不足を感じて

居る貧困者は、施療施藥せんと欲するも能はず、僅かに現存の施療機關と滿鐵、赤十字病院、大每社の巡回施療に依つて居るのみである。此外尙ほ無料施療の恩惠に浴し得ないで呻吟しつゝある憐むべき患者が各地に群を爲して居るのである。

認可された大連商工信用組合

其の設立經過と事業目論見書と綱領

豫て計畫中の大連商工信用組合は愈々關東廳の認可を受けた。同組合は大連市但馬町二二番地に事務所を設置し、田中宇一郎氏組合長に、岡野勇氏副組合長に、近藤哲濕氏常務理事になつて專ら組合事務の進捗を計つて居るが、田中氏は本來同組合の顧問であるから組合長は一時的のもので、組合長には追つて別に適任者を擧げるさうだ。

大連に於ける信用組合の必要は夙に各商工業者に依つて主唱され、一二其の創立發起を見たが、朝鮮及び內地に於けるが如き純然たる信用組合とは內容を異にせる點があつて、此間大いに硏究の餘地あるため、關東廳當局も去月設立した農村金融組合の如く急設の要なき口吻を漏らし、從つて低資融通の如きは全く不可能らしく思はれる。併し旣に部落信用組合の設立を認めた以上、都市信用組合の設立計畫が起るのは當然の勢であるから、當局も今回遂に商工信用組合の設立を認めたのであらう。唯玆に注意を要するは滿洲にある邦人が餘りに官憲の庇護を期待し、獨力で事業を經營し以て公共的福利の增進に努力せんとする念に乏しい事である。信用組合の如きは官憲の保護を受けなければ完全なる發達を望むことが出來ないが、從來官憲の保護を受けた事業で今日成績を擧げて居るものは殆んどなく、當局者も保護政策の方針を變更して餘程確實なものと認めた上でないと保護又は補助を與へない事になつたから今回認可された大連商工信用組合は規約に關東廳の低資を仰ぐ事になつて居るものゝ、夫れは將來の事であつて、差當つての一二年間は自立の基礎を築き

專ら組合內容の充實を圖るとの事である。

此の組合は目下百七十名位の組合員を有して居るが、夫等の組合員が果して組合費を永續的に納入し得るや否や、それは今日のところ問題とされて居る組合の出資は一口五圓とし、其の持分は一口乃至十口、貸出最高限度は一人二千圓以下で、未だ第一回の拂込みを徵收して居らない。同組合の事業目論見書及び綱領を掲ぐれば左の如し。

事業目論見書

一、本組合は組合員の數多きに過ぐる時は調査不行屆を來し經費と勞力を費し又小に失する時は維持費に不足を來す等の虞あるを以て其の中庸を採り初年は三百名を限度とす

二、本組合は運轉資金も相當の額に達し又其の取扱業務も小銀行と稍々匹敵するを以て役員を名譽職として無報酬無手當の下に本事業に當らしむるに困難を感ずる點あり故に有給理事を置き誠意以て本事業の發展を期せんとす

三、本組合の營業は規約に依るところの業務の進行に連れ相當の運轉資本を要すべきも營業の安全を期する爲め組合の資金は大體左の如く定むるを以て適當なりと信ず

△本組合の資本金及び出資額

一、金六十萬圓　資本金
一、口數　壹千口
一、一口の金額　金六百圓
一、每月一回一口拂込金　金五圓
一、每月一回拂込總額　金五千圓

△資金借入高　金參拾萬圓

一、人當り約千圓とし三百人分を營業資金として銀行より借入るゝものとす

△借入資金の償還

一、箇年間は利子支拂ひのみに止め元金は据ゑ置き二箇年目より每年六萬圓宛向ふ五箇年間に亘つて年賦支拂ひとなす事

△關東廳よりの援助

一、低利資金借入額金三十萬圓
一、取引銀行の指定

△創立費

一、金二千圓也　創立費並に事務所費備品費

△事業豫算表　初年度

一、金三十七萬圓也　事業總資本金

內　譯

金六萬圓　一箇年出資拂込の分
金三十萬圓　資金借入
金壹萬圓　一般諸預金

收支豫算表　（初年度一箇年分）

収入之部

一金四萬九千二百七十五圓也
　貸出金三十萬圓に對する利子日步四錢五厘
　一箇年（三百六十五日分）

支出之部

一金四萬六千二百二十圓也
　借入金利子及び維持費

差引金三千五十五圓也　　利益

支出内譯

一金二萬五千五百圓　借入金三十萬圓に對する利子年八步五厘
一金壹千圓　預金壹萬圓に對する利子年一割
一金九百圓　拂込出資金に對する配當年一割
一金一千五百六十圓　家賃月百三十圓
一金五千圓　事務員四名給料
一金二千四百圓　理事一名分俸給
一金四千圓　評議員、信用評定員、役員及び事務員賞與
一金六百圓　印刷及び文具費
一金百八十圓　電話料
一金三百圓　薪炭瓦斯水道電燈料
一金百八十圓　通信費
一金六百圓　交通費
一金二千圓　雜費
一金二千圓　創立費

計金四萬六千二百二十圓也

本組合には綱領なるものが設けられてあつて、精神的にも組合の結合を固め、併せて猶ほ勤儉貯蓄の美風を涵養するさうだ。その綱領は

綱領

一、德義を守り本分を盡し實踐躬行以て範を世上に示し自治自助の精神を發揮すべし
二、勤儉の美風を振作し善く蓄積の實を擧げ以て恒産恒心の本義を涵養すべし
三、業を興し自營の道を開き金融を緩和して之が獎勵幇助に努め更らに進んで其の發達改善を圖り生活の基礎を安固ならしむべし

規約は總則　出資及び積立金、機關、業務の執行及び剩餘金並に缺損補塡の五章十二箇條より成つて居るが、茲には其の掲載を省略する。



社會相のいろ〳〵

奇特な老人、近頃の名裁判、少年の窃盗

奇特な老人

眞實の社會奉仕

肩からかけた襷には「身上御相談所」「諸官廳屆書無料で代書いたします」「道御案内所」腰には「左側を歩行いたしませう」と書いたものをブラ下げた老人が東京神田方面を歩き廻つてゐる之は神田北神保町九の花井末吉（六十）といふ奇特な人だ。

花井老は昨年の震災後神田區役所に出頭し殺到する同區民の諸屆を毎日三百通位無料で代書してやつたものだが此頃は區劃整理に反對する者が續出したので自費を投じて區整斷行のポスターを作つて各戸に配布し一方區整反對者を訪問して說得に務めてゐる又神田區内の各交番には必ずこの老人が寄付した下駄の緒が備へつけられてあるが之れは老人が十年前から晝食を攝らずそのため一ヶ月十圓餘の生活費が餘るのでそれで麻を買ひ求め夫婦で下駄の鼻緒を作つては通行人が途中で下駄の緒が切れて困る場合使はせるため寄付しておくものだ。

老人の奇特はこれに止まらず「自心の御守」なるものを作つて欲しい人には無料でやつてゐるが中には「大正十二年九月一日正午十二時、一心明鏡」と書いてあり腹の立つ時や辛らいことに出合つた場合や贅澤心の起つた時に見よと註釋してある此の老人がどうしてこんな犧牲的の考へを起すやうになつたかと聞くと老人の語るところが甚だ面白い。

私は以前道德上の罪を犯した事が數限りありません兩親も兄弟も失つた時あゝ惡かつたと氣がつきました而も私の家の系圖書によると十三代と云ふものは何れも四十二歲で死んでゐる私も四十二歲で死ぬものと思つてゐたところ或る夜神樣が私に「お前は四十二歲で死ぬ然しそれ以上生きたい事を望むか」とおつしやるので私は生き度いとは思ひません然し生きられるなら世のために盡したいから二十年間生

き延ばして戴きたいと願ひましたそれで今まで丈夫でこの世にある譯ですけれども併し私は六十二歳即ち神に誓つた年には必ず死にます若しも死なかつたら私は何處ぞへ雲隱れしますその事は今から家內の者にも諒解さしてあるのですと何にしても人情輕薄の當節には珍らしい奇特な老人である。

近頃の名裁判

親權濫用に對して

大阪西區九條通四の四二一森下伊之吉は今から十年前內緣の妻森下ヤスと夫婦別れのとき當時五歲の養女千代子の引受けにつき爭つた末ヤスは單身實家なる和歌山縣日高郡南部町森下熊七方に歸つたところ伊之吉は女の兒は女親につくのが普通だとて亂暴にもまだ五歲の千代子の胸にヤスの住所を記した木札をぶら下げ大阪川口から一船員に託し遙々和歌山に荷物同樣にして送りつけたヤスも止むなく十七歲の今日まで苦勞して千代子を養育したが伊之吉は娘が年頃となつたので藝妓にでも賣飛ばさうといふ慾を起し戶籍が自分の方にあるのを幸ひ或る三百代言に賴んで養女取戾しの訴へを起した。

此の裁判の一審は當の千代子が出廷して「鬼のやうな養父の下に歸るなれば死んで仕舞ふ」と法廷で泣き出し結局一審は原告敗訴となつたが伊之吉は大阪控訴院に親權妨害に因る少女取戾しの控訴をなし大阪控訴院にては事情が如何やうにあらうとも戶籍面で控訴人が親權者である以上は原告の要求は正當であるとして一審判決を破毀して控訴人勝訴となつてソコで被告は大阪高木藏吉辯護士を代理人として上告したところ大審院では二審の判決は徒らに法律の辭句に拘泥したものだ養女千代子が上告人ヤスの許に成長したのは全く同人の自由意思による從つて伊之吉の措置は親權濫用で不當な要求であるとて二審判決を破毀し大阪控訴院に差戾し近く同院第一部で再審される筈であるが法を活用された此の新判決例について法曹界でも大評判である。

少年の窃盜

孝行少年が惡に

東京府下品川町二日五日市町六六寛ツル長男信貴

(一九)は横濱蠶絲クラブ内の復興亭へ料理の見習ひとして住み込み居るうち横濱郵便局の摸様を探り大膽にも前後二回に亙りて行嚢を窃盗し之を開港記念館地下室倉庫内の蔭に隱匿して置いたが事發覺し取押へられて警察署に引致された此の少年は納豆賣りの孝行少年と云はれて表彰までされたのであるが夫れが何うして窃盗をしたのであらう。

僅か十六で斯かる罪を犯す迄には社會の罪か將た父兄の罪か玆に涙ぐまずには居られない話がある信貫は病める母を介抱し妹ヤヱ子を劬はりつゝ毎朝弟の直次(當時十歳)と互ひに勵まし合ひ助け合ひながら納豆と豌豆とを町から町へ賣り歩いては稼いで一家を支へ夜は健氣にも母の看病に怠らなかつたので忽ち界隈の評判となり表彰もされ孝子納豆賣として當時評判に上つた少年であるが突然去年十一月廣島の異母姉酒井ツル(二五)から呼ばれたので廣島へ行き而して其の歸途あさはかにも「自分が一月も家を留守にしたから病める母は隨分困つてるだらう」と濱松でトランクを窃盗したのが惡事の芽ばえであつた其の當時大崎分署に引致され未成年のために歸宅は許されたものゝ今度は世間が相手にせず一方家庭の赤貧に堪え兼ねて信貫は遂に家出して了ひソレから益々惡くなり前記の如き窃盗を働くに至つたのである母親ツルは此事を聞いて驚きながら「マアほんとですか實は先月末家に遊んで居つても仕方がないから何處かに奉公すると云つて出たきり音沙汰がないので今日は戻るか明日は歸るかと夫ればかり願かけて祈つてゐました誠におとなしい子でしたが」と玉なす涙で一杯だつたとは左もあらう。

十年勤續表彰

青島水産組合には青島還附以前の創立當初から眞面目に勤めて居る者があるが左記數君は十年勤續者で今回金製腕時計一箇宛を贈與された。

青島水産組合勤務　山田英治君
同　上　廣田庫吉君
同　上　森繁政吉君
同　上　堀田文雄君
同　上　大嶋愼造君

社會問題彙報

撫順炭礦就業者の保健方法

滿鐵では從業員の保健につき常に細心の注意を拂ひ諸種の施設をなして居るが何れも病院の新設又は療養設備など消極的方面のみで如何にして健康を保持せしむるかといふ積極的方面は考慮されてゐない其の最も甚だしいものは撫順炭鑛だ撫順炭鑛には採炭夫が五萬人に達し一日平均五千五百人も就業して居り而して撫順炭坑內には十二肢腸蟲が充滿し從業員五萬人の內この病菌に侵されないものは稀有であるといふ事である之は裸體で坑內作業に當るため病菌が皮膚から侵入し而も之が豫防は絕對的に不可能であるとし一種の風土病扱ひにして顧みられて居ないためか其處に何等かの豫防法がない事もなからう。

就業方法は二交代制として十二時間勤務となつて居るから過勞のために不健康者が多いが其處に前述の如く十二肢腸蟲が襲ふといふ有樣なので日支從業員の勞働年限は他に比して非常に短く且つ死亡率も多いソコで滿鐵に於ては何時迄も之を放任して置く譯には行かぬとして漸く之が改善策を考究する事となつた若し右の十二肢腸蟲の驅除が不可能であるとすれば先づ採炭從業員の保健を計つて病菌から襲はれない樣にするといふ謂ゆる積極的方法として現在の二交代制を三交代制に改めソシて八時間勞働させればならぬとの改善意見が有力となつて居る更に各方面調査の結果に依ると二交代制を三交代制としても經費は餘りに增加せないとの事である一方支那採炭夫は收入の關係上八時間勞働を好まぬ風があるから愈々滿鐵の方針が三交代制に決定すれば强制的に實施する意圖もあるとか。

送迎人の船舶立入り禁止

大連埠頭に出入する定期船その他の船舶に對し多數の送迎者が船中に立入るため船客は勿論船舶側においても多大の迷惑を受けて居るので之が取締又は制限等に就いては常に問題とされて居たが肝腎の船舶側が客商賣である關係上餘りに嚴重のことも出來ず今日に及んで居たところ曩に滿鐵が七十五萬圓の巨資を投じて建設した船客待合所も今や既に竣工し尙ほ同待合所から定期船に昇降する可動式昇降梯もまた全く完成したので埠頭事務所ではこれを機會に數年來の懸案である送迎人の船中立入り禁止を實施しやうといふ事になり先月中埠頭事務所に關東廳、海務局、埠頭事務所、水上警務署、大阪商船會社および其他の關係者が集合して協議會を開き右送迎取締に關して熟議を遂げたうへ大連港に出入の船舶(主として定期船)に對する送迎人は絕對に船中に立入りを禁止すること但し老人又は病人等の附添ひを要するもの並に船舶に直接關係を有するものにして船會社の證明あるものは敢て此の限りに非ずとの決議をなし而して此の決議は六月十七日から實施し水上警務署員と埠頭事務所船舶係とが兩方互に相待つてその取締の任に當ることになつた。

右に對し內丸埠頭事務所庶務課長代理は語る「船舶の送迎人取締については何れの港灣でも問題となつてゐるが肝腎の船會社が營利を目的として居る關係上餘り嚴重にして人氣に觸れるやうでは不得策とあつて徹底的にやつて居る處は尠いやうだ然し大連のやうな無秩序亂脈極まるところは多くない其の結果船が出帆するまでに色々な事故が續出したり船

客や船側が迷惑を蒙ることが夥しいので今回待合所その他の設備が完成したのを機會に斷然これを禁止したのである然し船客の中には老人や病人もあらうし又は子供連れの婦人なども有らうから斯ういふ人々で是非とも附添人を必要とする場合は船會社で切符を買ふとき豫め申出れば船内出入の證明書を發行するし又新聞社、宿屋、船會社員、海務局員、水上署員、埠頭荷物取扱人などには入場券を交附しておき船の入口で檢札することにした夫れから船客の手廻り品は待合所内に預り人を設け一箇五錢の手數料で赤帽に運搬させ責任を以て船中へ届けるやうにした」と。

合理的に進み行く勞働運動

「只强い事のみ言つてゐたつて仕方がない俺たちは現實に即した合理的な運動をやらればならぬ」斯う揚言して方向轉換を發明した我國の勞働組合運動はその合理化の第一歩として組織の分化を行ふこと、なつた即ち勞働組合自體は從來の如き多岐に渉る運動を避け專ら經濟行動のみに力を傾注し政治行動は勞働組合と密接な有機的關係を保つ團體に委任する事となつた此の政治行動の團體は普選實施後は議會に勢力を伸ばし我國最初の無產黨又は勞働黨として名乘を擧げる筈であるが當分は結黨の下準備として假に「政治研究會」を設置し廣く全國同感の士の協力によつて無產民衆の政治的教育と團體的訓練とを促し民衆的政治運動の第一歩を踏出す豫定である此の計畫は安部磯雄、大山郁夫、賀川豐彥、山崎今朝彌、布施辰治、高橋龜吉、平林初之輔小泉鐵、青野季吉、新居格、島中雄三、三輪壽壯、丸岡重堯等の合法的社會運動家によつて畫策され日本勞働總同盟其他とも協商を重ねたうへ六月末に發會式を擧げ假事務所を東京四谷荒木町八布施辰治方に置いた。

右の如く政治行動と經濟行動の分化の行はれた外に勞働運動の基礎としての教育並に調査がこれまた別箇の團體によつて前者同樣組合との間に有機的關係を保つて行はれる事となつた即ち教育機關としては既設の日本勞働學校其他の外に社會主義の研究機關なるノエピアン協會及び故有島武郎の遺產を貰つた社會思想社が夫々學理の研究以外に街頭へ出て勞働者教育を始めた又調査機關としては野阪鐵、加藤勘七、赤松克麿、上條愛一、河田賢治、岡部完介諸氏が幹部として堀江、吉野、安部、北澤、鈴木、賀川その他斯界の先覺者を顧問として「產業勞働調查所」が東京麴町内幸町東鳴俱樂部内に設立され調査資料を蒐集すると共に先づ我國に缺如してゐる日本勞働年鑑を手初めに勞働問題の基本的調査に着手する事となつた斯くて日本の勞働運動は始めて合理的系統的に行進する譯で茲に我國勞働運動史の一轉期を劃する事となつた。

生み惱む滿鐵の兒童圖書館

滿鐵大連圖書館では兒童圖書館の設立を計畫し毎年豫算の申請をするが一向捗々しく運ばす最近に至つて漸く一萬圓を取ることが出來たが斯樣な小資では獨立した圖書館を作らるべくもない一方兒童の方は學校の教育方針からして漸次自由教育主義に傾きダントンプランの加味された教育を受けるので兒童本來の智識慾を滿たさんとする計りでなく實際上の必要からも殆ど餓ゑたもの、食を求むる如く兒童圖書館の設立が熱望してゐる。

兒童圖書館と言へば兒童專門の圖書の充實を意味するのみで圖書の充實よりも一人の適當な指導者を求めて止まないのである斯うした新時代の兒童を遇する道は滿鐵當局も相當考慮して居る筈であり一般は思ひ切つた施設を望んで已まない滿鐵圖書館佐竹庶務主任は「まあ差當つては何處かの圖書館に別に室を

取つてやる外仕方がないらしいが夫れにしてもさう餘裕のある圖書館はないから差當り日本橋詰めの大連俱樂部か何處かに新築して移轉するといふ話もある同建物は內部は可なり廣いから北公園圖書館を其後に移せば大體は希望が叶へられる筈である」と語つた。

毛色の變つた警部と巡査

朝鮮邊りで小役人をやつて鼻息を窺ふ位なら世相を一番深く知る事の出來る巡査の方が好いと總督府屬官を惜氣もなく捨てゝ交番の一巡査になつた痛快な若い法學士と父を陸軍中將に持ち海軍大將の令孃を夫人にした警部とが東京三田警察署の二名物として珍重がられてゐる名門の警部とは內藤三郎（三三）氏のことで嚴父は北白川宮能久親王殿下が臺灣征討のとき參謀長として智能を讃へられた內藤陸軍中將で夫人の富士子さんは栃內海軍大將の愛孃である此の名門の父二人を持つた內藤氏は大正九年に帝大法科を出てから自ら好んで一巡査を振出しにツイ先日警部に昇進しただけに部下への思ひ遣りも深く優しい監督者として謳はれてゐる現在の夫人と新婚の式を擧げたとき當時の總理大臣であつた故原敬が媒介者の一人として列席し此の目出たい會に招待を受けた同僚諸君を恐縮せしめ今でも一つのエピソートとして殘つて居る。

朝鮮總督府屬官から巡査へ轉じた一方の痛快なる法學士はツイ先頃東京芝三田聖町交番に外勤巡査として巣立ちしたばかりの本郷茂（三一）君で同氏も內藤氏と同年の帝大出身で今年二月まで總督府に勤め其の未來を囑望せられてゐたが感ずる所あつて上京し警視廳巡查を志願して教習所に入り此の三月末に首席で同所を卒へたのであるが當人は「まだ獨り身のまゝ合宿所生活をして居ます交番に立つてから僅々數日にしかならないので太した體驗も得ませんが何處か貧民街あたりへ行つて彼等貧民の實狀と世の中の實際を十分味はつて見たいと思ひます」と言つてゐる。

松山步兵二二聯隊の民衆化

松山步兵第二十二聯隊では松田前聯隊長時代から炊事場に火夫、厨夫等を雇ひ入れ兵士の無駄な勞役を廢し水揚げポンプに電氣裝置を施し或は洗濯場を改良するなど各種の施設をなす一方靑年團員を迎へて宿泊せしめ處女會、婦人團等の見學を歡迎し尙ほ一般外來者の目障りとなる營倉を他に移轉して其の跡へ面會所を新設し花壇を造つて外來者に好感を與へるなど一意民衆との接觸に努めて來たが今枝現聯隊長も同樣方針の下に二間半に三間の洋式面會所の內部へ額面を掲げ一對の花瓶を置き更に面會者に一人々々お茶を出すため專任の給仕を置くなど前聯隊長以上に平民ぶりの打拌けたところを發揮し軍隊といへば堅苦しいところ嚴重な所とのみ思はれてゐた觀念を除去し出來得る限り民衆化し眞實に軍人生活を理解せしめようと努めて居る。

現在では樹木の根本に圓形のベンチを造りヴエランダ式の小規模な休憩所が面會所前に出來上り其の周圍には既に朝顏の種を蒔いて既に芽を吹き花が咲く樣になり大いに美觀を添へて居るさうだが其處此處に植込まれたホワイトクローミーの間へはレツドクローバーの種を蒔いたから來年になれば赤白とり〴〵の色を見せるべく尙その間に樹木を移植しお濠に沿つた堤防の一部を遊園地にするさうで恰もシジガポールあたりの植民地といつたやうな感じを與へ懐かしい子、親しい兄、慕はしい夫に田舍から逢ひに來る人達のためには必ずや好感が與へられるに違ひない。

日本にも產業勞働調査所

今迄の我國に於ける勞働運動は兎角現實を

離れて空想的に成り勝であると云ふ批評があつたが之れは我が國情を精密に嚴正に研究調査する機關が缺けてゐることに依るとして本年の初めから計畫を進めて日本にも英國式の**「産業勞働調査所」を設け勞働、經濟、政治**等各方面を徹底的に調査しソシて實際運動家の利用し活用し得る機關を設ける事になつた此の事業には英國の勞働調査所で親しく働き實際を視察して來た野坂鐵氏が主任となり別項にも見ゆる加藤勘十、赤松克麿、上條愛一その他十數人の學生勞働者が各方面を分擔し堀江歸一、吉野作造、安部磯雄、北澤新次郎片山哲、石本惠吉、鈴木文治、賀川豐彦、松山元次郎、有馬賴寧、中澤竹次郎諸氏顧問に高橋龜吉、三輪壽壯、山名義鶴、麻生久、鈴木義三郎、丸岡重堯氏等囑託となり愈々事務所を東京麴町内幸町一ノ六東鳴倶樂部三號館に設け八方に活躍することゝなつた。

猶ほこの擧を讃し我國勞働運動に合理的基礎的材料を與ふるためにとて有志の寄附を初めとして各種調査機關、研究機關、勞働團體英國勞働調査所など熱心になつて積極的に後援を爲すものが甚だ多いさうだ更に此の調査所は個人の依頼にも應じて各種の調査をなし月刊報告書をも發行するさうである。

世の無情に泣くドン底生活

社會の表面たけを見て過ごす一般輕薄者流は早くも昨年の大震災を忘れて日夜遊惰に日**を暮してゐるが一方社會のドン底生活をなし**て居る者の間には一日一日と目に見えない危險な或るものが芽生えつゝある東京下谷萬年町二ノ五九山岸利作（五五）の妻トメ（五九）は昨年の震災以來病床に呻吟してゐたが更に本年二月頃から重い子宮癌を併發して明日をも知れぬ重態となつた處が利作は震災後の生活苦に堪へかねてか情なくも病妻トメと娘キサ（二八）養子三郎（一四）の三人を置き去りして昨年の暮家出してしまつた夫れとも知らぬ三人は今に歸るか〱と待つたが更に音沙汰もない生活は益々苦しくなつて行くそこでキサは病母を看護する傍ら入谷のセルロイド工場へ通つて日給七十錢を得る事となつたがそれだけでは到底一家の生活を支へる事が出來ないで何うしたらいゝかと毎日涙に暮れてゐたのを市の方面委員が知つて三月に入谷の濟生會病院に入院せしめる事となつた。

然しそれには附添人と一日の雜費五十五錢を要するといふ話で一時は途方に暮れたが母には替へられぬとキサはけなげにも病母を入院せしめて只管全快を待つてゐたら四月になつて突然同病院から退院を迫られたので止むなくまたバラツクに連れ戻つたそして自分の**手で看護する事となつたが之に見かねた方面委員は今度は市の本所の簡易療養所に入所せ**しめる事にして本人に話した處が今度は肝腎の本人トメが病院へ行くのは死に行くと同樣であるからと頑として聞き入れず今尚ほバラツクに呻吟してゐる畢竟これは濟生會が惡いのだソコで界隈では濟生會の不法なる處置を怒つてその噂で持切つてゐるさうだ尚ほ市社會局方面委員係の調査による此種の氣の毒な人たちは東京全市に約六百人もあるとの事である左るにても貧困病弱者救濟の目的を沒却した濟生會の措置は不都合極まる。

赤ン坊まで世話する小學校

岩崎家から東京市へ寄附した深川の公園には今バラツクの區役所が假住居をしてゐるが其の區役所から少し奧へはいつた左手のところにバラツクでは有るが可なりしつかりした平家建の大きな建物か建てられてゐる入口には「子供さんのお家ができました六月十五日から開きました年齡は幾つでも構ひません」と貼り出してある建物は大方出來あがつて戸

をさし込めば這入れる様になつてゐる或る人か一日この子供のお家を訪れて之は何ですかと尋ねると「子供の學校です」と出て來た男か汗によごれたお釜帽を取つて丁寧に挨拶する髯はボウ／＼と伸びてゐるし着てゐる洋服も大分汚くなつてゐるので恐らく大工さんか人夫だらうと思つてゐると名刺を出されたのでそれを見ると陸軍少將高橋武とあつた。

少し恐縮して「さういふ學校ですか」と重ねて尋ねると「これは高等小學校の程度から二歳位の赤ん坊まで入れることにしてあります」と答へた此の新しい建物の傍にある天幕張の中では小學生程度から幼稚園の子供や赤ん坊まで雜然と集まつて女の先生から愉快さうにお話を聞いてゐる昨年の十月基督教青年會で罹災者の兒童が學校に行かれずバラツクの中にほんやり日を送つてゐるのを見て何とかしてやりたいといふ考から天幕張で假の學校を開いたのが初めだ闕屋宮内次官の夫人キヌ子さんが主唱で高橋少將がこれを援けて六月十五日から開校する事になつたのだ。

文士藤森氏が勞働者の群へ

去る五月七日東京石原町の或る石鹸製造工場に入つた一見三十五六歳の丈の高い宮坂榮吉といふ男があつた其の工場では日給一圓二十錢をその男に給し石鹸の運搬夫としたが其れ以來同人は毎日黒木綿の勞働服に足袋跣足で眞黒になつて働いて居る之れは誰あらう現文壇の一流作家として且つ又社會問題の研究者として知られて居る藤森成吉君であつた藤森君は四月十三日のフエビアン協會例會に顏を出したのを最後に爾來友人間に一切顏を出さず特に親交ある秋田雨雀、前田河廣一郎等にも音信なく目下旅行中と言はれて居たほど今度の勞働者仲間入りは絶對に秘密にされて居たそれと共に夫人信子（高師教授岡倉芳三郎氏の長女）も龜井戸の或る護謨工場へ女工として入り込み藤森成吉の妻として眞黒になつて働らき日給六十五錢を得て居る。

藤森夫婦が工場へ出づる前長女すみゑ（八つ）を長野縣上諏訪の實父藤森忠四郎氏に長男隆夫（六つ）を東京の某親戚に託し尚ほ實家の家督相續を拒絶し一方信子夫人も嫁入り道具一切を實家岡倉方に返却して信仰生活と共に無産者勞働の境涯に入つて行つたのであつた本所石原町の或るキチン宿に當の藤森君を或人が訪問すると「あれ程秘密にして置いたのに……」と驚きながら新生活の筋を語つた「今のところ七時から五時まで十時間勞働ですが勞働界に飛び出す計畫は私としては十年來のことで其れが始めて實現された譯です之迄に至る氣持は實に複雜で其の動機に就ても簡單に言へません兎も角も勞働者でなくては判らない氣持だけは私に判つて居ます私は勞働の中でも下積みになつて始めて藝術にしろ社會問題にしろ基礎づけられるものが得られると思ひます之をエポツクとして新生涯に入る決心で眞面目にやつて行きます」と

一萬の世帶に住宅を提供

豫て設立認可中であつた内務大臣を會長とする同潤會は今回更に一千萬圓を支出して財團法人を組織し小住宅を建てゝバラツク居住者を復歸せしめ又震災に因る不具癈疾者を收容し且之に授産と教育の方途を講ずる各種の救護施設を經營せしむることゝなつた會長は内務大臣であるが會務は設立當初の理事であつた井上孝哉、池田宏兩氏が執ることゝなつた同會の住宅建設計畫は現在のバラツク居住者約十萬人なるも目下東京府下及び神奈川縣下に建設せしめつゝある小住宅五千戸の完成並に民間住宅の復興に伴ひ此等に移轉するもの相當の數に下るべければ之等を除算し一萬に近き世帶を安定せしむるを目標として必要

な住宅を建設する計畫で不日評議員會と理事會の成立次第着々具體化するさうだ。

次に不具癈疾者收容所並に授産場は震災の爲め不具癈疾となり生活に困難せるも尚多少の勞働能力を有する者の救濟保護を目的とするもので有つて是等の者に對しては將來獨立の生計を營み得るやう一定の期間を定めて職業教育を施すと共に修業後は然るべき適當な就職口を斡旋することゝなつて居る尚ほ同會の事業としては震災救護上必要な施設は政府の施設と相俟つて之を實施し十分に義捐者の意思に副ふことに努めるさうである。

公徳養成の爲に學校園藝

大連四公園事務所の坂田氏は公園で栽培して居る草花の苗なれば幾らでも供給するからとて市内各小學校に對し頻りに學校園藝を奬めて居る既にその奬めによつて兒童に栽培させて居る學校もあるが坂田氏が斯く小學校方面に園藝を奬勵するに至つたのは譯のあることである公園では毎年夥しい花盜人が出て或は摘み取り或は根こそぎ引き拔いて行く亂暴な仕草に市民共樂のそれが無慘に荒らされる之れは日支市民に公徳の缺如せることを明かに表示するものであるが殆ど防止することの出來ぬ状態にあるソコで公共道徳養成の一助として小學校に園藝を奬勵し第二の國民たる小學兒童に園藝趣味を普及し花卉に對する愛を培ひ立派な市民を養成しようと云ふのが目的の一つ今一つはさうして現在學校において兒童が園藝趣味を解する事に依つてそれが家庭にも普及するであらう事が目的の二となつて學校園藝を奬勵して居るのであると。

公園を荒す不徳義漢は園藝の趣味を解せず眞に花を愛する奥ゆかしい心を持たぬもの、所爲であつて中には立派な紳士風を裝ひながら未だ何の慾もない神の如く清い幼兒に對し公園内の花を摘み取つて與へ不知不識の間に不徳義を教へて居る或は又園内の番人の影を見るとそれ／＼恐い人が來たと教へ行き過ぎるのを待つて摘みとらして居る有様は實に戰慄すべき態度と言はねばならぬ斯くの如きは不徳義とも無恥とも言はれる行爲であつて之が矯正を第二の市民たる小學生の間から培はうとする遠大な計畫は最も妥當且適切なものであつて小學校でも皆賛成して居る。

小公園を市民の體育に利用

大阪市教育部では十三年度から社會教育事業の振興に主力を注ぐこととなり學校を中心とした社會教育施設についても目下研究を進めてゐるが一方では市民體育奬勵のため夜間市設各運動場を開放すべしとの要求があり龜島社會教育主事は此の要求に基き擧てこれに關する計畫を立案中のところ此程出來上つて小畑教育部長の裁量を求めることになつた其の内容は市の管理に屬する淀川、中之島、天王寺、築港遊園地の各公園を始めとし御藏跡清水谷、北野、阿波座、九條、西九條、木津西野田の各小公園都合十二箇所の公園内のテニスコートを夜間開放するため電燈を取付ける外更に之を利用してスローイング（但し砲丸投だけ）並にジヤンピングの出來るやうに設備をなし又ランニングは他の競技よりも廣い場所を要するので之は淀川、築港、中之島天王寺、木津の五公園だけに止めて出來るだけ理想的の設備を施すとの事である。

又これ等の計畫と同時に築港市立運動場をも無料で夜間開放をなし公園監督者には運動の知識を與へて萬事手落ちのないやう取計らひ斯うして市内の公園全部に以上の施設が出來上れば此の施設を中心に運動チームをつくり年二回位各チーム番組を作つて隨時試合をさせる仕組みださうな都市の公園を斯ういふ風に利用するのは洵に好い事である。

暴力制裁

◆直接行動と云ふと勞働者のデモンストレーションや同盟罷業を直ぐ思ひ出す◆がさう限つたものでは無く政府や警察を無視して民衆自ら暴力に訴ゐて直接に所謂『やツ付けろ』流を發揮するのも同樣に直接行動だと云へる◆米國のリンチなども其の一ツで支那のボイコツトもまた其の一種と見て可からう封建時代の武士の斬捨御免も直接行動であつた◆政治季節に入ると院外團を中心にして壯士などが暴ばれ出し總選擧の場合にも色々な直接行動が演ぜられる◆清浦內閣時代に壯漢が議場の議員席に飛び出して萬歲を唱ゐ之がために政府に議會解散の口實を與ゐたのも直接行動だ◆直接行動といふ事を斯う廣汎に見て取ると殆ど際限がないから其の範圍は自ら限られねばならないが近來我國にも暴力團體の殖ゐたことは事實だ◆『結局は腕力さ理屈で納まらない世の中だから理屈を超越した腕力の必要がある』と云つて『やツ付けろ』流を發揮する◆それが多くの暴力團體の信條らしいが國際平和の高調せらるゝ今日その反對に國內に暴力團體が起り德川時代の白柄組のやうなものが出來て殺氣を漲らすのは餘り感心した事でない◆伊國のムツソリーニがファスシスト團を率ひ暴力を以て反對黨をやつ付けたのに感激して日本にも種々の暴力團體が出來たのだとは或人の話である◆前月六日の夜に東京は帝國ホテルの舞踏會に黑龍會の猛者連が飛び出してダンス病に罹つた內外男女を愕然たらしめたのも一種の直接行動と云へる◆內に震災が起り外に排日移民問題が起り內憂外患國步極めて艱難な時節にダンスなどに狂ひ廻る男女があるのは甚だ怪しからん◆黑龍會の猛者連は之を憤慨し柔道何段といふ練ゐた身軀で『ダンスよりも斯うして踊れ』と腰にした日本刀を引拔いて日本固有の劍舞をやつたのは痛快だ◆『國家重大の秋に方り淫風滔々として漲り渡るは遺憾に堪ゐぬ上流社會に在る諸君は卒先して毛唐のするダンスなど止めて貰ひたい』と此の猛者連が叫んだのも至極尤もな事である◆種々の暴力團體が出來て無暗に拳骨を振廻すのは感心しないが黑龍會の猛者連が演出した此の一種の直接行動は面白い◆面白いでは無い大いに意義がある亂暴と云へば亂暴だが斯うした暴力的直接行動まで非認する譯には行かない◆ダンスの

弊は歐米でも識者は認めて居るのに我國の此頃の男女の風儀は紊れる一方でそれが上流社會になるほど激しい樣だ◆南洋土蠻人の尻振り踊りが進化したやうな眞似をしなければ外國人との交際が能きぬと云ふわけでも有るまい◆此の帝國ホテルの舞踏會には米國人の男女も混つて居たから排日移民問題に當て付けた點もあらうが何にしても痛快だ◆歐化主義も米化主義も最うい丶加減にして日本は日本の良所と國粹を中心に猶ほ進んでは東洋の優所長所を發揮して世界に臨むやうにせねば成らぬ◆ダンスなどは止めて日本には日本としての踊りがあるから惡い點があれば夫れを改めて踊れ男子は須らく劍舞をやれ◆對米移民問題と共に米國品ボイコットが起り大連でも米國品不買の聲が高まつたが米國品ばかりでなく舶來品を無暗に買ふのも止めて貰ひたい◆粗製濫造で而も値段の高い日本商品にも困りもので物に依つては値の安い堅牢な獨逸品の方がい丶が舶來品の總べてが必らず好いものと極つた事もない◆安物買ひの錢失ひと云ふ事もあるから買物には注意を要すること勿論だが値の高いものが悉く良いとは限らない◆上流社會のものが高い舶來品を買つて無暗にひけらかすのは亡國の兆だ輸入超過、國富減耗の勢ひを煽るものは彼等である◆ソコで贅澤な舶來品や米國品を買はぬ樣にするボイコットも一種の直接行動であつて其處に國民魂の閃めきがある◆國民魂が復活して神洲正大の氣が日本全體に漲るやうになれば歐化主義も米化主義も勢ひを失ひダンスなどは木の葉の如くけし飛んでしまうだらう◆じやに依つて直接行動も暴力制裁も或點まで結構であるが感情に任かせて無暗に拳骨を振廻すのは宜しくない◆武は戈を止むる爲めの力で不義を懲らし横暴を挫ぎそして正義と平和を顯はすのが用武の眞髓であることを忘れてはならぬ◆腕ッ節の强いのを自慢に弱いものに向つて暴力を加へるのは野武士のする事で我が武士道の本旨に背いたものだ◆曲つた强いものを挫ぎ正しい弱いものを助けるのが武の目的で我が武士道は其處に確乎とした信條を据ゑてゐる◆黒龍會猛者連のダンス制裁は暴力としても直接行動としても痛快味を覺ゑるが他の滔々たる暴力團體は武の本旨と武道の眞髓を心得て居るか何うか◆淫風と情氣の充ちたとき霹靂一聲も妙だが之も餘り傾ぎ過ぎては好くない。

少年の犯罪

◉放火した又は盜みした子供といへば誰しもそれを不良少年と思ふだらうが不良少年にも先天的と後天的との別がある◉生まれ付き卽ち先天的のものは中々手に負ねないが後天的のものは或點まで矯正し得られる◉後天的の者にも色々種類があつて之を大別すると社會的と家庭的とに分けられる◉最も注意したいのは貧に逼られて盜みをした者や繼母に虐待されて放火を思ひ立つたと云ふ氣の毒な少年のある事だ◉前號の本誌に掲げた貧に逼られて盜みをした可憐の少年中川勝己の如きは前者に屬し最近繼母の虐待に堪ね兼ね自宅四疊半の間に放火を仕掛けて家出した田村春彥は後者に屬する◉行爲から云へば是等も不良少年の中に入れられるが家庭の事情と當人の心中を察しやつたら大いに同情すべき點がある◉田村春彥は大連若狹町四丁目某火災保險會社員田村順太郎の次男で繼母の虐待に悲憤と痛恨が十五歲の小さい胸の中に深く刻み込まれた結果竟に放火を仕掛けて家出をすると云ふ大それた事を敢てしたのである◉子供心にも放火をして怨みを晴らさうとした事の惡いのは知つて居ると見ね警務署で取調べられたとき双頰に熱涙を流しさめ〴〵と泣き伏したと云ふではないか◉可哀さうに純眞で無邪氣であるべき少年の心に苦惱を與ねてそれを邪道に導いたのは誰だ◉直接の罪は彼を虐待した彼の繼母だが之を看過した父親にも罪がある詰り家庭の混濁と不行屆きとが少年をして罪を犯させる樣にしたのである◉中川勝己は母が病みまた頑是ない弟の常吉にミルクを買つて呑ませる金もないため苦しまぎれにチボを働らいたのだ◉此の二少年は家庭の事情から惡い事をしたので心からの不良少年とは言へない◉斯うした憐れな少年にも不良少年の烙印を付して單にその行爲の惡をのみ責めるのは酷だ◉若し之を罪人扱ひにしたら少年の心は益々ねぢけて夫れこそ後天的の立派な不良少年になつてしまうだらう◉此處が社會問題として考ふべき點だ內地に少年法が施かれ少年審判所が設けられたのは不良少年の善導良化を欲するからだ◉滿洲にはまだ斯うした社會的法律も社會的施設もないが少年の犯罪には其の動機に就いて十分注意を加へて欲しい◉行爲よりも行爲を生んだ社會と家庭の如何を虛心に取調べるのが第一だ。



綠蔭幽草居雜筆

綠蔭幽草居 主人

私の都市大連觀

家と家とが櫛の齒のやうに列んで、その間に道路、公園、廣場などがあつても、餘りに機械的に細工し過ぎた都會は、人の生活にさして幸福を齎さない。斯樣な機械的都市には、砂塵と煤煙が渦を卷き、清い空氣が通はず、日光の惠みも薄く、人間の吐き合ふ呼吸にも濁りが多い。

此の數年來異常な發展を遂げたソシて日支人々口二十餘萬と稱せらるゝ都市大連、それの現狀は果して理想的と云へるだらう乎、機械的に細工し過ぎたところがない乎、外觀の割合に內容が貧弱でないと言ひ得られる乎。私は殘念ながら都市大連の現狀に滿足の意を表することが能きない。殊に大正八年の空景氣時代に浮ッ調子の不自然な膨脹をした大連市は、それ丈け無理な點があり、不合理な所があり、都市としての內容に缺くるところが尠くない。そこに大連市改造の根本事由があると思つてゐる。

大連聖德會によつて聖德街なるものが出來た。聖德會は大工、左官、其他の土木現業者より成る一種の勞働團體であるから、私は當初この新市街が彼等勞働者の手前持ち辨當で出來上ることゝ思つた。世人も勞働町が出來るなどゝ言つたものだ。處がその豫想は全然裏切られた。畢竟するに第一歩を誤つたのだ。低利資

金二百萬圓もこれでは意義をなすまい。今は一種の住宅地になつたが、家の作りのまづい所があり、住宅地といふ精神に適せぬ點もあり、家賃は比較的安いやうだけれども、其の結果、妙なおかしなものになつて了つた。斯うなつたのは要するに住宅問題に對する無智識無理想の致す所だ。

大連土地郊外株式會社によつて建てられた老虎灘街道の住宅は如何。それはホーワードの主唱が基になつて出來た田園都市（ガーデンシチー）とは別の物で、强いて云へば、その一種に屬する郊外都市の部類に入るべきものだらう。此の老虎灘街道の郊外都市を本家本元のバーネット夫人の努力によつて出來た英國の郊外都市に較べて、どんな違ひがあるかは、暫らくその評議を預かることにし、此の郊外都市にも改造を要する點があらうと思ふ。年賦償却の住宅が普通の貸家に變るのは、多少已むを得ないとしても、もつと力强いソシて簡便なものにするやう努力する必要はない乎。當事者の熟考を促したい。

曰く南山麓の高等住宅、曰く潭家屯の市營住宅、曰く住宅組合、曰く何と、大連の住宅計畫も此の數年來大分進んだ。併しそれが近代都市計畫といふ全體の上に一致してゐる乎、また全體の都市計畫方針が樹つてゐて其の上に行はれたものである乎は、大いに疑問の存ずる所だ。都市大連を外觀的にも內容的にも將來立派な都市にしやうと思ふなら、專門家を中心にした都市計畫委員會を組織し、それに依つて大連の都市建設方針を定め、新らしく進むと共に惡いところは改めて行く樣にしたいものだ。

綠蔭幽草居

私が今住つてゐる松山町の住宅地區は、規範甚だ狹少であるけれども、梨、桃、櫻桃、林檎、葡萄などの果樹があり、一寸した畑地もあつて、大連には珍らしい田園趣味に富んだ處だ。

五月から周圍に新綠が濶たり、その綠蔭を通して吹き來る風の涼しさ、空氣の淸らかさ、とても言葉には盡せない。一歩町の中に出ると、風の强く吹く時は、謂ゆる砂塵濛々で、滿洲名物の砂ほこりが眼となく鼻となく無遠慮に押寄せるが、此の住宅地區には餘り砂塵が立たない。四邊に空地があつて、其處に草が生ひ茂り、その野草にも捨てがたい趣がある。『綠蔭幽草勝花時』の古詩の妙趣は此の實境に在つて始めて味ひ得られる。そこで借家ではあるが私はその居家を綠蔭幽草居と名づけた。

四月の初めに此處に移つたので、冬の住心地は知らないが、家の四方に窓があり、天氣のいゝ時は、朝から晩まで日が當り、それでゐて朝と晩とは寒いくらゐに涼しい。曇つた日でもさう暗くはない。お蔭で朝寢坊の私も此頃は每朝六時前に起き、綠蔭幽草の四邊を一廻りし、そして顏を洗ひ、神に祈禱し、先祖代々の靈位を列ねた佛壇に向つて合掌し、それから朝飯を食ふことにして居る。氣持のいゝこと無類だ。氣持のよくなり計りでも健康に益する。私は斯樣な處に住むやうになつた神の恵みを感謝する。

畑地には茄子、胡瓜、赤大根、菜、豆、里芋などを栽培した。それは妻がやるのだが夕方には私も飛び出して行つて水を撒いたりする。西洋苺も栽培し、その果が日毎に太くなつて、やがて其の眞紅な奴が白砂糖と共に小皿に盛れるやうになつたが、根虫の付くには閉口した。果樹の害虫を驅るのも一骨だ。ダリア、朝顏、菊、鳳仙花、コスモスなどの花卉も地植に又は鉢植にして樂んでゐる。

狹い一地域だが、現在の大連市には恐らく斯んな田園趣味に富んだ住宅地はあるまい。郊外住宅でも、南山麓の高等住宅地でも、野趣のある點において、松山町の此の住宅地區には及ぶまい。正金銀行や東拓の大きな社宅があり、個人持ちの大きな家もあり、民政署長の官舍もこの附近に在るが、私の住ひはごく手頃の平屋で、あたりの自然味と適合してゐる。西公園がツイ近くに在るので、朝と夕とにその綠蔭幽草の間を散

策すると、一段と心地がいゝ。自然の惠みに親しみ得るのは此の上もない幸福である。朝鮮の平壤府に居た時、町外れの御幸町といふ處に住つた事があるが、松山町の綠蔭幽草居はそれにも增した田園趣味の豐かな處だ。市中に斯うした住宅地があるのは好いことだ。

大自然と大詩人

此の住地は少し高臺になつて居るので、大連市の一部が眼下に眺められ、夜になると、電氣遊園から小崗子、伏見臺一帶に灯る電燈の光が青葉の蔭から美しく閃めく。大連灣の海の面も見ゑ、西北には大和尙山との連峰がうねり、東南には南山のうねりが起伏して一幅の活畫を現出する。一面に青葉が茂り、此間に家屋が點綴し、熱鬧の巷から全く隔離して居る。或朝小庭先に立つて居ると、一羽の鳥が空高く飛んでやがて雲のなかに消ゑ入つた。『朝まだき空仰ぎ見れば鳥高く飛び行くやがて雲に消ゑ入る』と腰折が口を衝いて出た。近來詩腸の枯れた私もどうやら詩興が復活しさうに思はれる。

田園都市も餘り細工に過ぎると妙味を缺く。成るべく大自然に接近し、大自然の妙趣を失はないやにして適度の人爲的加工をする。それが謂ふところのガーデンシチーの眼目だらうと思ふ。西公園は野趣に富んで居る、この野趣を保存してその上に手頃の人爲的施設を加へる、それが西公園改造の根本義であらねばならぬ。今の西公園は人爲的施設が乏しいから、先づ通路を改め、樹木の配置を好くし、谿谷に水を流す樣にし保健浴場、運動場、射的場などの外に、將來は博物館を初め、美術館、動物園、植物園なども設ける事にしたいものだ。併し大自然の妙趣を破るやうな小刀細工をしてはならぬ。

■藝術は大自然を無視し能はぬ。野趣のいゝ所を取り入れ、その客觀に主觀を加へて再製する、それが藝術

の本旨だらうと思ふ。エステーチックの事を能く知らない私も、大自然の壯嚴に打たれると、何とも云へぬ爽かな心胸が開かれる。朝に夕に山を見、海を眺め、樹と草との緣りに親むと、大きな感興が腹の底から湧き出で、敬虔崇高の念がきざし、その直覺が宗教の信仰に突入するかの如く覺ゐる。一夕田岡淮海先生が見ゐた時、『天を畏み、人情を重んじ、僧月照と入水までした大西鄕は熱誠の人で、卽ち大詩人であつたと思ふが如何』と問ふたら、淮海先生は『然り』と答ゐ、坐敷に揭げてある吉田松陰手書の扁題を指さし『松陰も大詩人であつた』と曰はれた。眞の詩人、一切の虛妄から超越した詩人のやうな熱誠漢、さうした人物が出なければ、政治も、經濟も、社會も、その行詰りから救ふことは出來ない。

生存と殺生

小園に、畑地に、蜘蛛が枝から枝、垣から垣へ巢を張る。虫が巢に罹ると、彼は徐ろに這ひ出して來てその虫を捉へ、そして生血を吸つてしまう。生血を吸ふ、何といふ慘酷な、何といふ亂暴な事だらう。併し蜘蛛は虫の生血を吸はなければ生きて居られぬ。彼は生存のために斯くするのだ。

生存のために他の生存を脅かす、これが生物界を通じての事實で、吾々人間も魚類、獸類、鳥類を屠らなければ活きて居られぬ。日本人の主食物たる米、それから蔬菜、それ等も生物だ。吾々人間は他の生物よりも多くの生物を脅かして活きてゐる。その生活は極めて複雜だ。文明人ほど生活が複雜になる。空氣を吸ひ水を呑んで活きることが能きれば結構だが、空氣にも水にも生命はある、無機物といへども全く靈のないわけではない。斯うして總べての生物が活きて行くとすれば、自然界の一面は甚だ殺風景だが、生存のために他の生存を脅かすと云ふことは、生存上の要件であつて、神の許された事だと思ふ。

併し無益の殺生は罪惡だ。獵夫が鐵砲を擔いで山野に鳥獸を狩るのは、彼等の生存、少くとも生活のためだが、慰み半分に鐵砲を肩にして樹上の鳥や山間の獸を屠るのは罪惡だ。そんな事をしないでも立派に生存し生活し得られるのに、獵夫の眞似をして無益の殺生をするのは宜しくない。それと同様に、漁夫が網を張つて魚を取るのは生活のためだが、閑つぶしに、面白半分に、漁夫の眞似をして海や河に綸を垂れ罟を張るのは贅澤だ、イヤ罪惡だと云つて差支ない。要するに理由のない殺生は惡い。

果樹に害虫が附く、蔬菜に根虫が付く、それを驅るのは如何、罪惡か、然らざるか、との問が出たら何と答ふべき乎。果樹も蔬菜も人間の生存將た生活に缺く可らざるものとすれば、それに付いた虫を屠り取るのは、自己生存のためであるから、必ずしも罪惡と見るには及ぶまい。ボーイ●スカウトの守規に猥りに生物を害ふ勿れとあるが、生物愛護の美念がなければ、人類相愛の美情も起らぬわけで、吾々人間も生物の一である以上、他の生物に對して常に相當の考慮を加へる必要があると思ふ。

弱肉强食は宇宙の眞理だ。雀は鷹の餌食、鰯は鯨の食物だ。生物界は互にその生存を脅かしつゝ活きて行く。强者は力において優り、弱者は量と數とにおいて優る、そして生物界は調節されて往くのだ。併し無益の殺生は惡い、必要以外、生存以外、理由なき殺生をするのは慥かに罪惡である。

主智主義の弊

科學眼を以てすれば、花が咲くのも、また鳥が鳴くのも、性慾作用といふ事になるが、自然の現象を斯う主智的に觀ては味がない。美は綜合より成る、その綜合より成るものを美と感じ、花の色を視、鳥の聲を聞いて心を和らぐるは、吾々人間に美感があるからで、此の美感は尊ぶべきものだ。理智が肯定しても感情が

否定する、斯うした事は吾々の日常生活に屢々起る。それ程に感情は強い力を持つてゐる。此の感情を純化し、淘冶し、洗練するのが情育、美育の目的で、智育の能くする所でない。

科學は尊ばねばならぬ、科學とその應用の猶ほ遲れてゐる我國においては、一段と科學を尊重せねばならぬ。併し科學は萬能でない。科學を以て宇宙の謎を解き人生の歸趨を明かにすることは能きない。科學妄信の弊は、主智的、實利的、唯物的となり、人生に最も大切な情熱を零度以下に冷却せしめ、此の社會を殺風景にし、從つて乾燥無味にする。情意敎育、藝術敎育の聲が高まり、一方において宗敎に對する憧憬心が漸く深まつて來たのは、要するに科學的主智敎育の弊を悟つた爲だ。

科學的主智敎育を受け、學校を出で、そして社會に活動してゐる現代人の多くは、事務的に能く役立つけれども、誠意が足らず、概して人格が小いやうだ。利害觀念が強く、打算には長けて居るが、是非の念が乏しい樣に思はれる。銀貨や端書が小くなつた樣に人間も型が小くなつた樣だ。智識は分別し判斷するも物を動かす原動力ではあり得ない。熱は感情より湧く。大感情は大熱力だ。此の大熱力がなければ大事業は決して成らぬ。大事業は大熱力のある大人物を待つて始めて成るのである。

信仰と迷信の別

母國の或る地方に大きな地震が起つた時、その土地に一人のお婆さんがあつて、家族のものが皆んな驚いて屋外に飛び出したのに、此のお婆さんのみは佛壇の前に端坐瞑目して泰然自若としてゐた。此の家は幸ひに潰れなかつたので、やがて家族のものが恐る〳〵屋内に戻り、お婆さんに向つて『ごうしました、皆んな心配して居たのです』と訊くと、お婆さんは珠數を爪繰りながら

『ナニね、私は阿彌陀樣に一切お任せして居るのだから、外に出ないでも、助かる時は助かるし、助からない時は助からないと、斯う覺悟を極めて居たのです、何も慌てる事はありません』

と言つて、口の內で南無阿彌陀佛を繰返し、益々泰然として居たといふ事である。之れは確かに立派な信仰だ。此のお婆さんは無學であつたと云ふが、無學でも斯うした信仰が立てば偉い、イヤ寧ろ無學で妄念が少なかつたればこそ純信仰の三昧境に入り得たのであらう。

西南戰爭の折、西鄕方の士卒に銃丸を恐れないで盛んに前進する一人の若者があつた。皆々その勇氣に敬服した。やがて飛んで來た丸の一ッが彼の腕を掠めて彼は少し傷を負ふた。すると銃丸を物ともしなかつた此の若者の態度がガラリと變り、急に鐵砲丸を恐れる樣になり、そして尻迄みばかりする。隊長が不審に思つて、その若者を呼び寄せ、仔細如何と尋ねると

『女の襦袢を肌に付けて戰爭すると、決して丸が當らないと聞きましたので、戰場に臨む前、私は遊廓に遊びに行つて、豫て馴染みの女から襦袢を一枚借り受け、それを着用して出戰しました、それで始めは平氣で居たのです、處が一ッ掠られましたので、急に怯氣がつき、ツイ尻込みしたのです』

と答ゐたといふ事だが、これなどは明かに迷信だ。前のお婆さんのは眞の信仰で、此の若者のは慥かに迷信だ。信仰と迷信の區別は一寸言ひ表はし難いが、此の二ッの例を以て答ゐたならば、何人にも信仰と迷信の區別が分るだらうと思ふ。今の宗教信者には後者の迷信家が多いやうだ。



或る若者の手記

永田新郷

吉田は松下と共に彼の家を出て果てしなく打續いた雜木林の間を靜かに立並んで歩いた。ぎつしりと動物の毛のやうに生ゐ茂つた芝草の葉尖にゆら〳〵と燃ゆる陽炎を吉田は自分の身の中に燃ゆる感情の尖になぞらへて深く感激するのであつた。彼は碧海の如く澄み切つた空中に晴々しい歌の節を殘して飛んで行く小鳥の胸の中を知ることが出來るやうな氣持を自分の心の中に感ずるのであつた。

二人はいつしかK街道に出て居た。K街道を左の方に折れる處まで來ると其處には石の大きな道標が立つて居た。見ると幾十年と云ふ間、雨に打だれ、風に吹かれ、霜に虐げられ、暑さに燒かれて來た石は、ボロボロに腐蝕して、其の上に苔が青く恰も地圖の色どりのやうな形に生ゐて居た。午後の陽光は、銳く眞正面に此の石を射り、それが石を掩ふ苔の底まで突き入つて居るがやうに思はれた。大切な文字はもう何時の間にかその姿を失つて今は全く無用の長物となつて居るに過ぎなかつた。そして其の石と一間と離れない處に此の村の青年團で建てたと云ふことを書き表はしてある棒杭が樹てゝあつて、それに黑々とした鮮かな文字で通行の旅人に便宜を與ゐる事柄など書いてあつた。

古い石の道標と、新らしく建てられた棒杭の道標と、斯うした二つの關係を、漫然看過して了へばそれ迄であるが、それには吉田の心を捕ゐねば措かぬ運命の惡戲が現はれて居た。

『吾もまたいつ迄かある』。

夢のやうな詩的な昂奮から、吉田は漸く醒めかゝつた、そして彼が未來のプエールが削きまくられて、その下から彼の眞實な僞りのない心の叫びが聲を擧げた。

『運命は何時までも俺に幸福を與ゐるであらうか?』

斯う思つた丈けで彼はもう自分の現實が益々暗くなつて行くやうに感ぜられた。と同時に彼の顏は、今までの感激の心に滿ち溢れて居た晴々しい色を失つて、不愉快な沈痛な面になり變らうとした。彼はじつと唇を噛んで考ゐた。然し同行の松下には、斯うした吉田の感情の激變がどうした理由によつてゞあるか、それを知ることが出來なかつた。けれ共、吉田が自分の云つた事、家を出る前に直言した事を不愉快に思つて居ないと云ふことだけは十分に解つて居た。

『どうしても行くのか?』

松下は吉田に向つて斯う云つた、そして何うにかして、もう一度吉田を反省さして彼の家出を思い止まらせたい、それには昂奮して居る吉田の感情を柔らげ、以前のやうな快濶に還らさせねばならない、と思つた然しこれと云つて吉田を感動させるやうな崛强な言葉は差當り見出だせなかつた。

『僕は君に眞實を語る。此際總てを振り捨てゝ家出するより他に何うする道もないと云ふ、それが君としての今の場合一番賢い考ゐ方であるかも知れない。實際君の叔父さんのやうな頑迷な、感傷的な、そして無理解な人には、君の家出と云ふことが最も速かに事件の解決をつける有力な鍵であるかも知れない。併し君は將來のことも考ゐなくてはならない。僕は今日までに多數の友だちを持つたけれども誰にも語つた事のない秘密な事まで語つたのは君だけだ。それも君と僕とがお互ひに深く信じ合ひ愛し合つて居ると思ふからだ

それで若しかしたら、僕の云ふことを君が聞き入れて與れて心を飜へして呉れはしないかと思つて、それで話して見たんだ。僕達は今、幸福になるか、不幸になるかの岐路に立つて居るのだ』

松下は斯う云つて更らに吉田の家出を引き止めやうとするのであつた。

無言で聞いて居た吉田は、斯うした松下の親切から出た言葉を全然一蹴し去るわけには行かないやうな氣持になつた。そして自分自身の心の中で、深く冷靜に其處に何物かの閃きを摑まうと考へた。けれ共、彼は松下の深い友情を感謝しながらも、彼の言葉に從ふわけには行かなかつた。

『靑春に輝く希望を奪はれて堪るものか』

突嗟の間に斯うした思想が彼の頭の中に稻妻の如く貫き走つた。

『義理がなんだ、運命がなんだ、生きて行かうとする俺の意志の力を奪はれて堪るもるものか』

吉田は斯う心の中で叫んだ。彼の唇はぶる〱顫へた。彼の顏には見る〱内に感激した力が血となつて充實して行つた。『どうしても俺は行かなくてはならないのだ』。彼には出征の戰士のやうな勇猛心が宛ら潮の如く體軀一杯に湧き起つて來るのを覺へた。

暫くしてから吉田は堪へ難い沈默の苦悶を破つた。『言はなければならない、總てを言つて了はなければならない』。胸に犇々と迫つて來る衝動の昂奮は遂に彼をして最後の決意を强いるのであつた。

『松下君、僕は君の厚意に眞底から感謝する。從つて僕は當然君の言葉に從はねばならないのだが、今の僕としては、何うしても自分の意志を貫徹させねばならない時なのだ。この際は寧ろ僕の自由に任かして呉れ給へ。ね、賴むよ、眞に賴む、心の底から……』

彼は斯う言つてます〱唇を慄はした。

『ぢやアどうしても行くと云ふんだね。仕方がない行き給へ。僕はもう何事も云はない。僕が君の家出を引き止めた後で、若しも問題が再燃しては、却つて君を苦しめる事にもなるから、最う決して何も云はないよ。併し僕としては莫逆の友たる君と別れるのが何よりも辛いのだ。何となく淋しい氣がする。だが之れも仕方がない。堅固な君の決心を無理に飜へさすのは惡い。その代り成るべく早く歸つて來て呉れ給へ。後の事は僕が何んとか解決を付ける事にするから……』

斯う云つて松下は吉田の手を堅く握つた。うつ向ひて居た松下の目には涙が滲んで居た。そして更に何か言はうとして唇を動かしたけれ共、感慨が胸に逼つて自然と咽喉を鎖して了つた。

道の兩側には松林が續いて、それが遙かに見ゆる村の土藏の白壁の側まで迫り、その林の奥の方で時外れの鶯の聲がした。開きゝつた蕨の葉は一尺ほど伸び揃つて、薄の中に遠慮なく幅を利かせ、林の中に囁く風に頻りと頭を振つて居る。そして蒸すやうな草の匂ひが立並んだ二人の間に充ち溢れた。何處からともなく百姓娘の唄の聲がのんびりと流れて來た。束縛されない自由な農民の生活と、その生活から來る幸福とが、村に近づいて行くに從つて、濃厚な情調を作つて居るやうに思はれた。吉田は松下に村の入口まで送つて貰つた。此時松下はもう一度吉田の手を固く握つて、

『それぢやア、明日また逢つて御別れしやう、僕は此處で失敬するよ』

『アヽ、色々心配をかけて濟まなかつた』

これ丈け云つて吉田は松下と別れた。そして其處から左の方に折れて自分の家の方に向つた。

『松下君は俺の家出を許して呉れた』

彼は斯う思ふと、之から行かうと云ふ未知の國土の事や、其の國土で新たに活きる事や、横暴な叔父の事

や、其他いろ〱の事が胸の中に浮んで來て、何となく氣が晴々とした。

彼の足は無暗に急ぐやうに歩いた。足は足で勝手に歩いて居る樣であつた。彼の足と彼の胸とは別々に働いて居た。自分の身體が今どんな働きをして居るか、どう云ふ意志のもとに動いて居るか、彼にはそれを考ねる餘裕がなかつた。唯彼の胸の中には、叔父から與へられた不快な感情と、其の感情を基礎として築かれた想像のみが蔓り、遂にはまた、その想像から何等か全神經に響き渡るものがあつた。

『俺が今家出をしたら、叔父は兎に角、叔母は定めし嘆くだらう。今日が今日までも、決して無謀なことはしませんと云つて安心させて居たのに、突然家出をしたら何んなに心配するだらう』

斯う考ね直すとそこにまた新らしい感情が湧いて來る。

俺は人間ぢやない、俺の仕打は人間を零にして仕舞ふかも知れないと思つたりするのであつた。彼は自分の身の內に簇生する淡い希望を此の反省と共に恐しい猛獸の咆哮を聞くやうにも感じた。自分と云ふものを獸の心と同じやうにするには忍びないと云ふ魂の歔欷がその時彼の心に起つた。けれども其の瞬間、更に痛切な疑問の渦卷が起つて、それが空を掩ふ夕立雲のやうに彼の胸の中を占領した。

『俺は無論人間に違ひないが、併し人間とは一體どんなものだ？俺にはそれが分らない爲めにどんなに苦しみ拔いて來た事だらう、そして誰もそれを致へて吳れない。歷史は人間の脫殼のみを示して吳れるに過ぎない。これが人間の正體だと俺の前にそれを見せて吳れる者はない。又これから先それを見せて吳れるものは恐らく一人もあるまい。俺はどうしたらいゝのだ』

その時、更に強く斯うした疑問の渦卷が旋風の如くに彼の頭の中を走つた。感情の激越と思想の反逆に堪ねなかつた彼は、痛々しいまでに憂悶の苦みを肉體の中に深く〱刻み込んだ。

彼は下を向いて歩いて居た。彼の表情は苦しい疑問の謎に虐けられるものゝ様であつた。今が今まで精神的勝利を誇つた彼の晴れやかな顔はそこにはもう見られなかつた。

灰色の道は坦々として果てしなく續く。彼れは其の道路の上を、苦患に堪ゐない心を抱いて、一歩〳〵と極めて緩慢に殆ど無意識に歩いた。道の兩側には一面に廣々とした麥畑が打續き、ぎつしりと重さうに熟しきつた麥の穗先を、折柄の夕日が赤く色彩つて居た。

『俺は人間だ。人間とは俺の事だ。だから自分自身の煩悶に苦められて居るのだ』

彼は暫らくしてから斯う思ひついた。

やがて彼は頭を擧げて溜息を洩らした。何となく胸の中がすくやうに覺ゐた。

『賢愚の別はあらう、從つて優劣の別もあらう、併し人間は大體同じものだ。善もなければ惡もない、みんな同じやうに二本の手と、二本の脚と、胴と、胸と、それから頭とを有つて居るではないか。盜人も、人殺しも、社會主義者も、國事犯も、放火犯も、何處に人間でないと云ふ證據があるか。乞食は朝早く森を出て家々の軒に立つて食を漁りながら活きて居る。やつぱり人間だ。大厦高樓の中に涼しい顏をして居る資本家や政治家も人間だ。要するに大膽で正直な人間であり得ればいゝのだ。それが本當の尊い人間であるのだ俺は正直であればいゝ。もう考へたり迷つたりして苦んで居る必要はない。眞正直に大膽に我と云ふものゝ存在理由を見出せばいゝのだ。今日といふ今日から、俺は生れ變つたやうに大膽な正直な男になつて、唯その信ずる所に向つてのみ力強い歩みを運ばせねばならぬのだ』

彼は大きな本通りから左へ折れて細い畦道に這入つた。道は人間がやつとの事で通り得られるだけの廣さしかなかつた。歩くたびに麥の穗が彼の着物に觸れて乾き切つた何の潤ひのないカラ〳〵とした音を立てた

夕雲雀が西の世界へ落ち込んで行つた、そして太陽の餘光で黄色に彩られた空の中で高く啼いた。彼は無意識に空を仰いだ。果てしない大空は、無限の愛の海のやうに、鋭く彼の神經に感應を與ゐた。宇宙は滿ち溢れた喜びをたゝゐながら深い沈默の中に豐かな呼吸を續けて居るのであつた。

彼は立ち止まつて背を伸ばして見た。今まで胸の中に層雲の一時に亂れたやうに蟠まつて居た紛々たる雜念が、恰も疾風に吹き拂はれた浮雲のやうに、束の間に跡方もなく消へ去つて了つた。さうして彼は明快な意識と雄大な思想の誕生とを自分の心の中に感じた。

『恐れるな行け、狐疑する事はない、勇ましく行け』

彼は心の中で斯う叫んで急に大跨になつて歩き出した。實際此の時、彼の顏には輝くばかりの光が射して苦惱と憂愁の色は拭ひ取つたやうに名殘りなく消ゐて居た。

彼に斜めに傾いた畦道をどん〳〵下の方に降りて行つた。と、眼界が急に廣くなつて、既に開かれた胸がそれと同時に一層爽かになつた。見ると其の行方に廣々とした沼が生物の這ふやうにぴた〳〵と波を立てゝ岸を洗つて居た。彼は沼の岸邊を辿つて更に東の方に向つて歩いて行つた。沼一面の水には、もう夕靄が立ち罩めて、細く生ひ伸びた蘆の葉蔭に、乘り捨てられた漁師の小さな舟が一二隻漂ふて繋がれて居た。沼の向ふの遠い彼方は、削り取つたやうな絶壁になつて居て、その上に、造つたやうな枝振りの松が、紺碧の夕空にくつきりと濃く、紺青の姿を黒繪のやうに浮き出させて居た。はた〳〵と羽を搏つて蘆葉の間から飛び出した鳥は、白い輪を暫らく空中に描いて居たが、いつの間にか黄昏の空の中に姿を消して了つた。夢のやうな靜かさだ。彼はゆつたりした氣持になつて何となく心の廣やかさを覺ゐた。榛の枝には綠色の葉が一杯について、その木陰の暗い水面の中に、ぴしやりと魚が躍つて波紋を造つたりなどした。

彼はやがて沼を遮ぎる一條の廣い道路に出た。道の眞中には橋がかゝつてゐて、沼から流れ出る水は其處から川となつて、一面に廣がる水田の中を帶のやうにうねりうねつて流れて居た。橋の下には、丸太で階段が造つてあつて、其の階段の上に村の若い娘たちが、二人の若い男たちを相手にして、何やら笑ひさゞめいて居た。自由と幸福の空氣がこの間に漂ふて居るのを感じた。娘たちは手に持つてゐた鎌を川の堤に置いて靜かに流れる川の水に、白い脚を惜氣もなく捲つて、ぢやぶ〳〵音をさせながら脚を洗つて居た。どの娘もどの娘も、みんな跣足であつた。男は僅かに足袋を穿いて居るのみで、赤銅色に日燒けた股が、紺の着物の間から丈夫さうに見ゐた。男たちがそつと娘たちの後に立つて、わつと言つて突き落すやうな眞似をすると娘たちは輕く受け流しながら、その癖、面白さうにきやつ〳〵と燥いで居た。吉田が橋の上に立つた時でも男は無論、娘たちも、少しも羞むやうな表情の皺一つさへも顔に表はさなかつた。

『大膽な性慾の暴露だ』

彼は一種の驚異を感じたが、その刹那に、彼は又斯うも思つた。

『何と云ふ平和さだらう、何と云ふ自由だらう、そうして何と云ふ幸福だらう。少しも醜い事はない。少しの暗さも少しの汚さも無い。どこに惡いと云ふ批難の點を見出すことが出來ない。それよりも寧ろ詩のやうな美しさがそこに溢れて居るではないか。僞りのない愛の力が其處に限りなく躍つて居るではないか。そうしてそれは、たゞ眞正直な人間の前にのみ誇り輝く幸福であるのだ』

吉田は斯う考ゐながら橋の上を通り過ぎた。そして幾度も振り返つて、彼等の笑聲の一旋律さへも、意味あるものゝやうに思つて、聞き洩らすまいと打ち眺めた。

『同じ人間だなどと理窟ぽい事を考へるから惡いのだ。理智がどれほど人間を幸福にするか？人間の幸福

を破壞するものはそれ自身の持つてゐる智惠ではないか？智惠の蔭に隱れて、それに育まれた罪惡によつて人生は深い罪の重圍に陷るのだ。智惠の禍から逃れ出せ。束縛とは汝自身の手が汝自身を縛つて居る事なのだ。幸福はいつも有るがまゝに正直な百姓の子たちの頭の上にのみ輝くのだ』

『百姓を讃美しろ。彼等は實に太陽の子のやうな幸福を有つて居る。どんな汚ない性慾でもその百姓のやうな眞正直な心に依つてのみ自然の如くに美しいのだ』。

吉田の胸は、何時の間にか斯樣な感激に充たされて、さつき松下と別れた事や、叔父や叔母の事や、いよいよ行くと決めた明日の出來事などは殆んど全く忘れて居た。

彼は種々の感想に打たれながら自分の家近くに來た。其の時、後の方に當つて、歡喜に溢れたやうな聲で若い女たちの唄ふのが聞ゑた。彼は立ち止まつて振り返つて見た。すると遙かの遠い闇の中に、白い手拭が三つ、もつれあふやうに動いて居た。それは慥かに前見た娘たちに相違ない。

『何うしても幸福な生命そのまゝの聲だ』

彼はさう思つて深く溜息を洩らした。歌の聲は、一節二節づゝ、消ゑては續き、續きては消ゑ、さては絕ゑなんとしては更らに起り、縷々として夕闇の中に響き渡つた。彼は恍惚として唯その娘たちの歌の音色に聞き惚れて居た。と、歌の聲はまた、彼の右の方から來て、村の入口の處で一緒に本道になる細い道の竹籔の蔭に聞ゑた。それに續いて、若い男たちの破鐘のやうな歌の聲も、直ぐ彼の足もとから起つた。そして二人の子供が裸足でばた〳〵と勢ひ好く彼の前を走り過ぎた。

『何といふ自由なそして幸福な事だらう』

彼は有頂天になつて自分の家に向つて無闇と歩いて行つた。（此一篇を田舍の榮吉君に）

研究會の旨趣目的

満洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて賛助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名並に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は賛助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に拾回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以てこれに充て會費は賛助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

●道教百話(上)…………
支那民俗文庫第一編として支那民俗研究會より發行せしもの發行所は大連市二葉町四ノ五〇日華共榮社なり

●朝鮮總督府施政年報(十一年度)……

●世界植民地現勢(調査資料四輯)……

●獨逸の經濟的及び財政的狀態(同上五輯)…以上…朝鮮總督府

●米國の大豆と豆油(調査資料二九)…
満鐵庶務部調査課

◉満洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、泰東日報、新生活、日満通信、満蒙、讀書會雜誌新天地、海友、満蒙實業彙報、調査時報、満洲建築協會雜誌、満洲公論、大陸、日華之貿易、満洲經濟時報、關東新聞、聖德會會報、(以上は大連)◉大陸日日新聞、奉天新聞、奉天毎日新聞、満蒙經濟新報(以上は奉天)◉調査彙報(長春商議所)◉大乘(上海)◉青島新報(青島)◉調査彙報(朝鮮總督府)、◉朝鮮地方行政、京城日報、朝鮮新聞、朝鮮及朝鮮人朝鮮及満洲(以上京城)◉釜山日報(釜山)◉平南毎日新聞、平壤商業會議所月報(以上平壤)◉臺灣時報、臺法月報(以上臺灣)◉臨時產業調査局資料、満鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、東京商業會議所所報、愛國婦人、人道、大東公論、週間日本(以上東京)◉紡績界(大阪)同志社時報(京都)◉東亞經濟研究(山口)◉福岡日日新聞(福岡)

毎月一回發行

定價表

普通號六拾錢、特別號七拾錢

冊數	定價	郵税
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵税共
一箇年分	七圓五拾錢	郵税共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割増

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

◉三回以上は割引可仕候◉年極めは特別に御相談可致候
●〆切りは前月二十日限り

大正十三年七月一日發行
發行人 山田武吉
編輯人 大内四郎
印刷人 太田信三
印刷所 大連市大山通 小林又七支店
發行所(電話五四二六番) 大連市松山町五番地七號 振替口座大連一一三九番
満洲社會事業研究會

大正十一年八月廿五日第三種郵便物認可